

DM49-H16



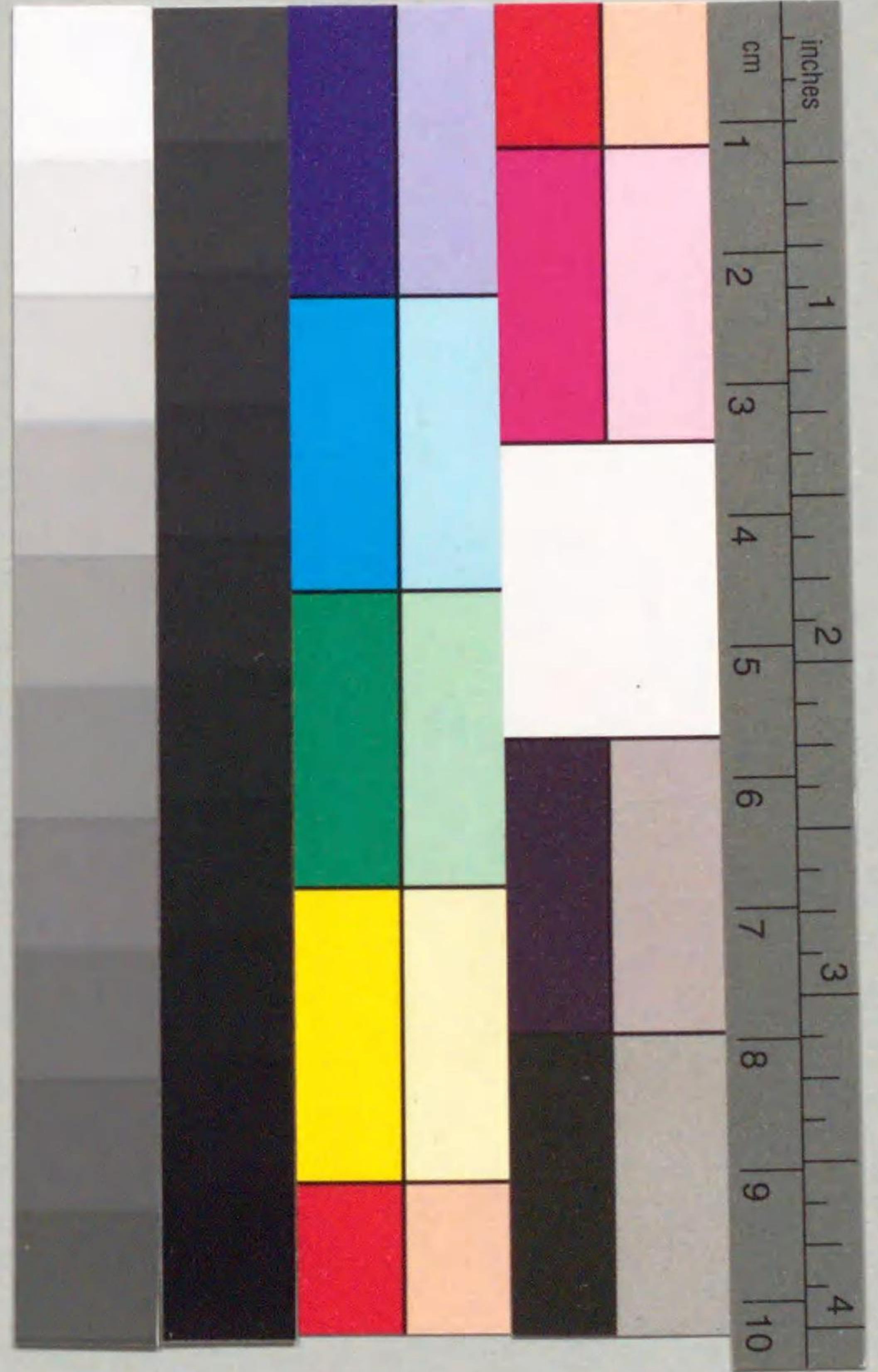
1200600140906

農⁵業
施設
概要

9820

28

南滿洲鐵道株式會社



農業施設概要

農業施設概要

DM49

H16

農業施設概要

農業施設概要

目次

第一	緒言	一
第二	農務課	三
第三	農事試験	五
一	概要	五
二	農事試験場公主嶺本場	七
三	農事試験場熊岳城分場	一八
四	農事試作場	二四
	鄭家屯試作農場	
	湯崗子アルカリ試験地。鳳凰城煙草試作場	

目次



I種

W



1200600140906

長春、遼陽、鐵嶺、安東各苗圃

第四 優良種苗及種畜の育成……………三一

一 概要……………三一

二 大豆獎勵品種の育成……………三二

三 開原、大屯原種圃、農事試驗場公主嶺本場及鄭家屯試作農場

三 水稻獎勵品種の育成……………三三

三 奉天、大榆樹採種田及農事試驗場熊岳城分場

四 果樹苗木獎勵品種の育成……………三四

一 瓦房店苗圃及農事試驗場熊岳城分場

五 黑山屯種羊場……………三五

六 公主嶺假種羊場……………三六

七 鐵嶺種豚場……………三七

第五 植樹造林用樹苗の育成……………三八

一 概要……………三八

二 苗圃……………三九

第六 家畜疾病の研究及獸疫血清類の製造……………四六

一 概要……………四六

二 奉天獸疫研究所……………四七

第七 農業教育……………四九

一 熊岳城農業學校……………四九

二 公主嶺農業學校……………四九

三 農事試驗場實習見習……………五〇

第八 農業調査……………五〇

一 農務課發刊……………五一

二 農事試驗場發刊……………五四

三 調査課發刊……………五六

四 哈爾濱事務所調査課發刊……………五六

第九 農事助成……………五七

一 水田事業の援助……………五八

二 特用作物栽培事業の援助……………五九

三 果樹栽培事業の援助……………六二

四 農耕地の貸付……………六三

五 農場、牧場、造林事業の助成……………六四

六 社外農事企業依頼調査及指導……………六四

七 農業者使用品運賃割引……………六五

八 優良種苗及種畜配布……………六五

九 農事講話會及農產物品評會……………六七

一〇 農事試作補助……………六八

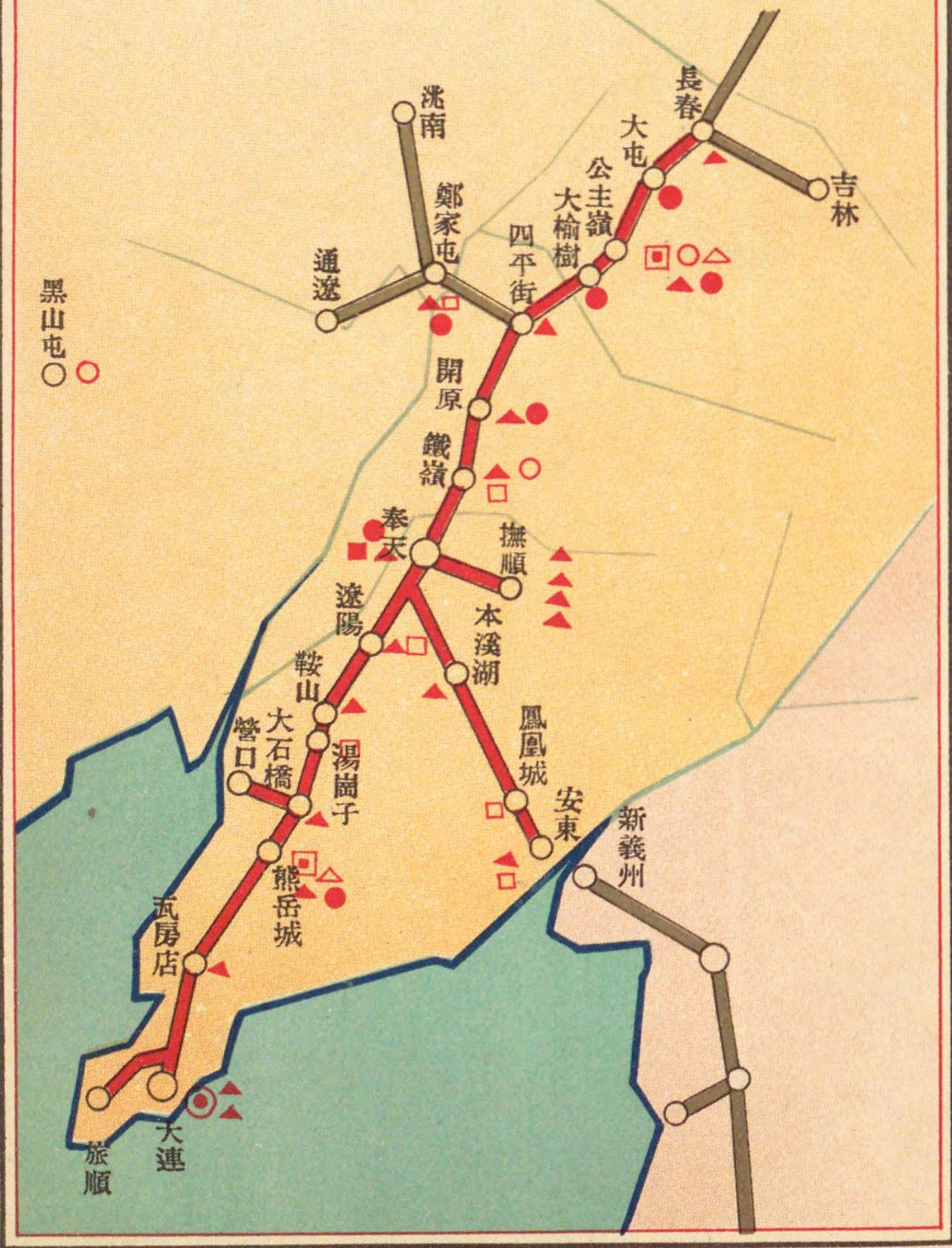
一一 造林用樹苗の配布……………六八

一二 獸疫豫防……………六九

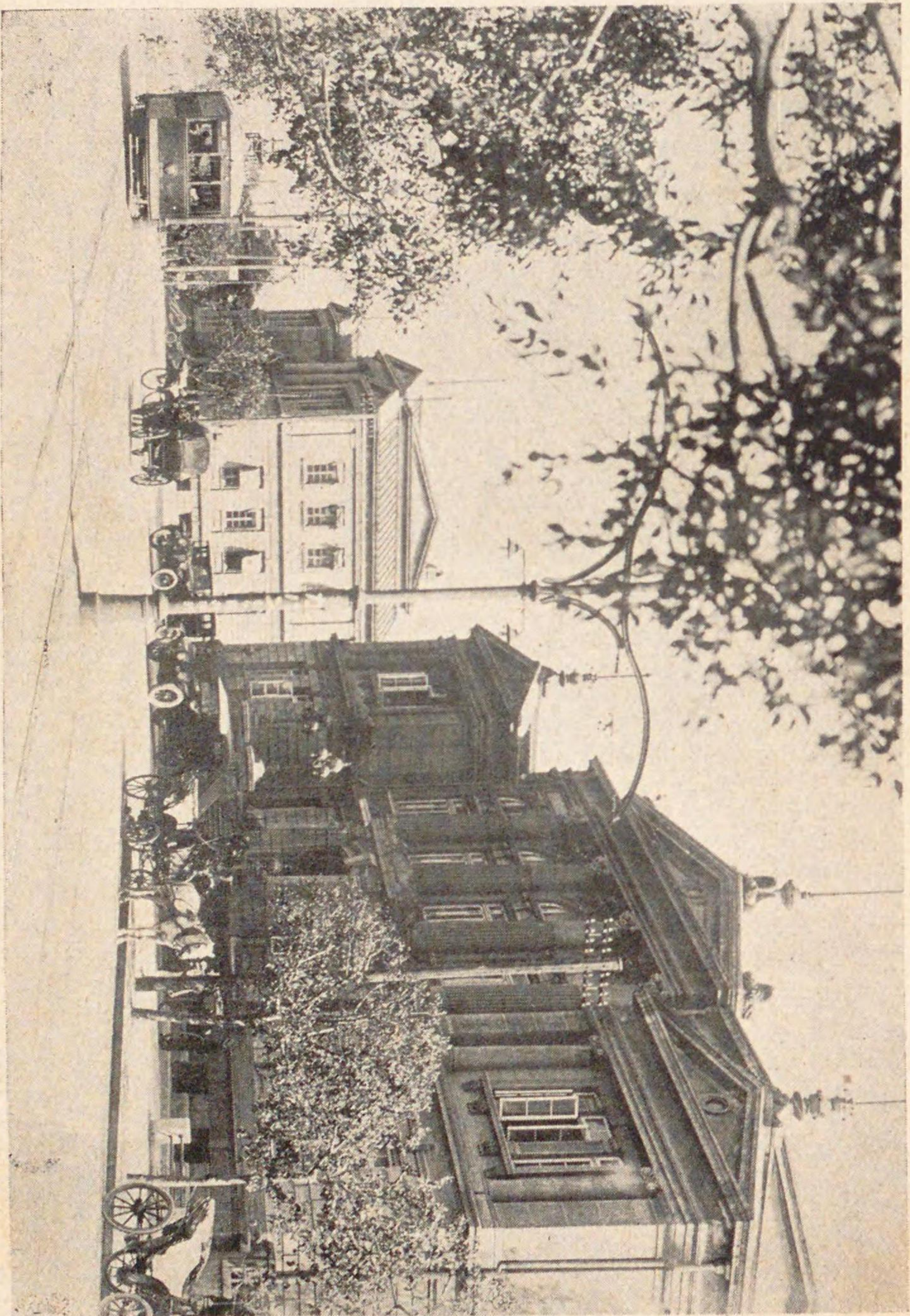
一三 農事企業に對する助成方針……………七〇

△	■	○	●	▲	□	◻	◎
農業學校	獸疫研究所	種畜場	原種田圃及採種田圃	苗圃	農事試作場	農事試驗場	本社農務課

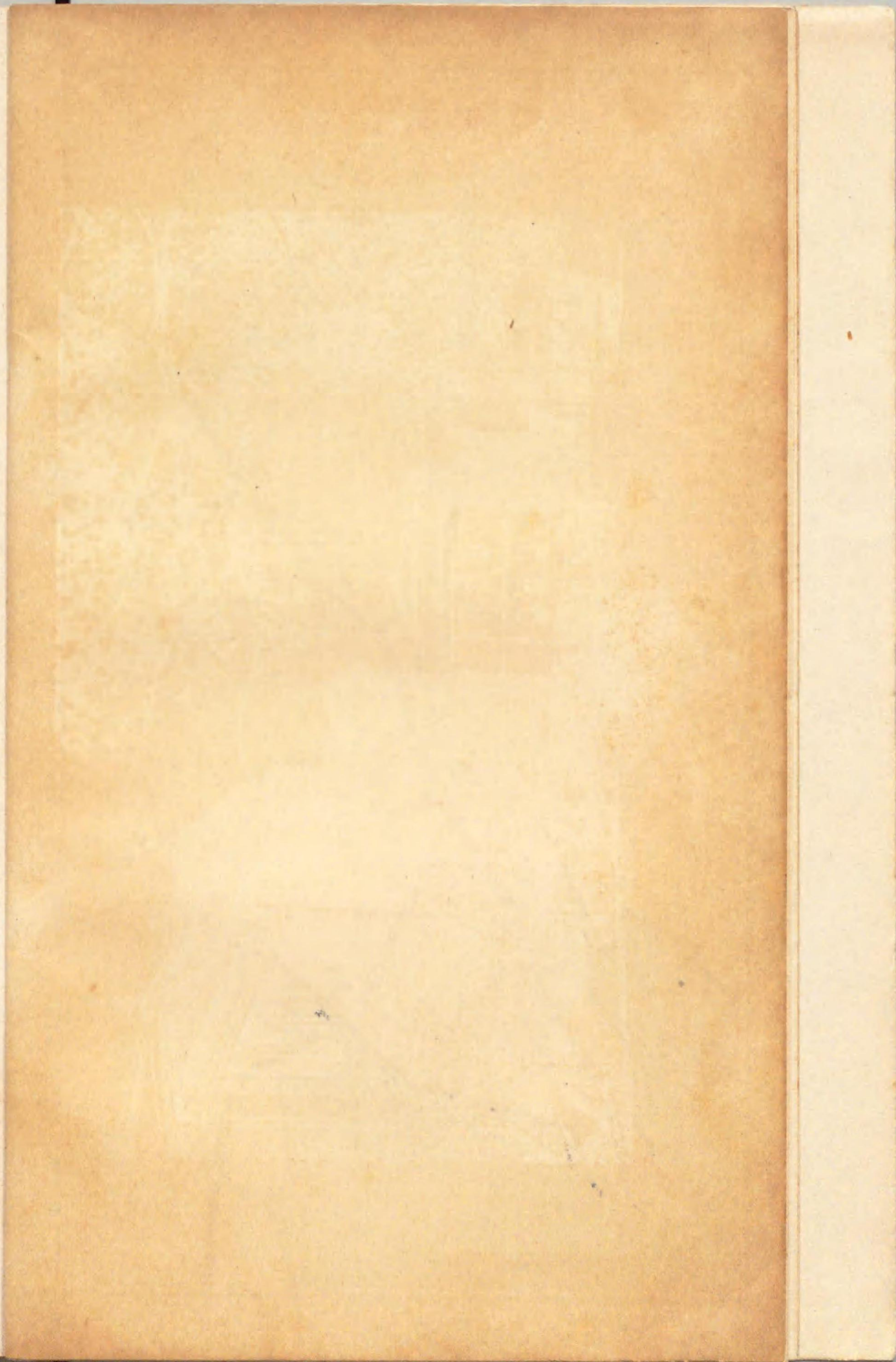
農業施設機關

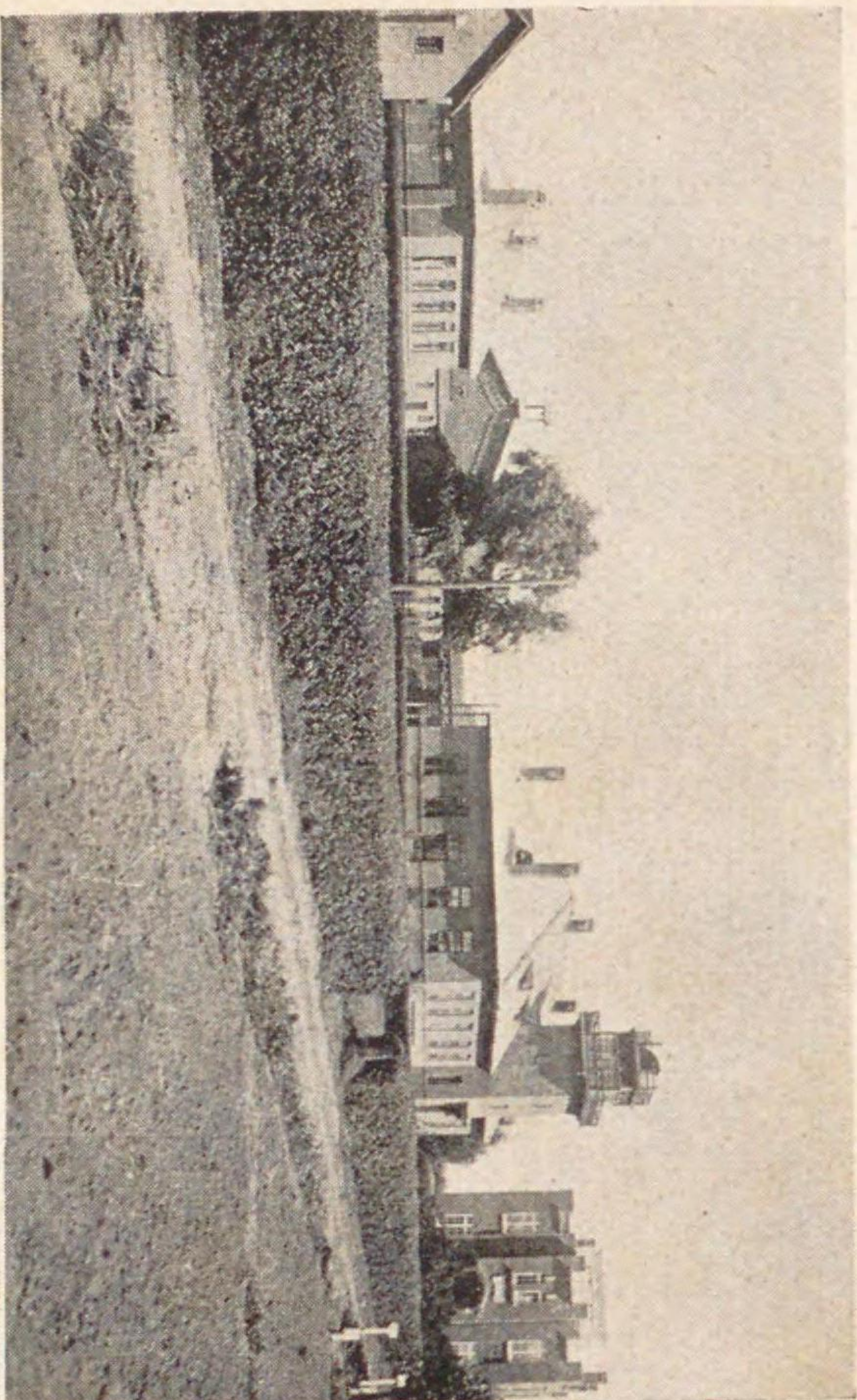


一、本會之宗旨
 二、本會之組織
 三、本會之業務
 四、本會之經費
 五、本會之附屬機關
 六、本會之附屬機關
 七、本會之附屬機關
 八、本會之附屬機關
 九、本會之附屬機關
 十、本會之附屬機關

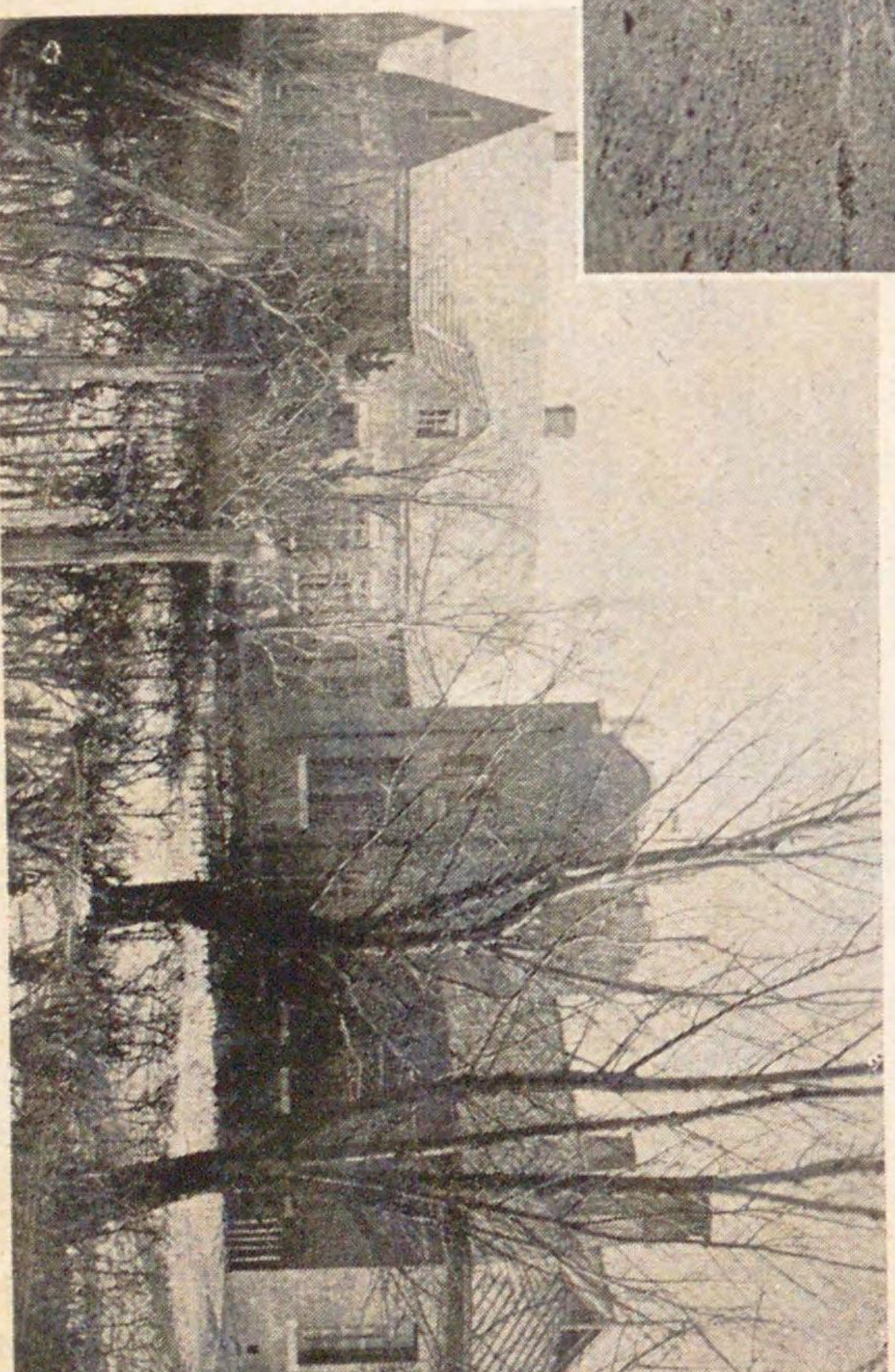


滿 鐵 本 社

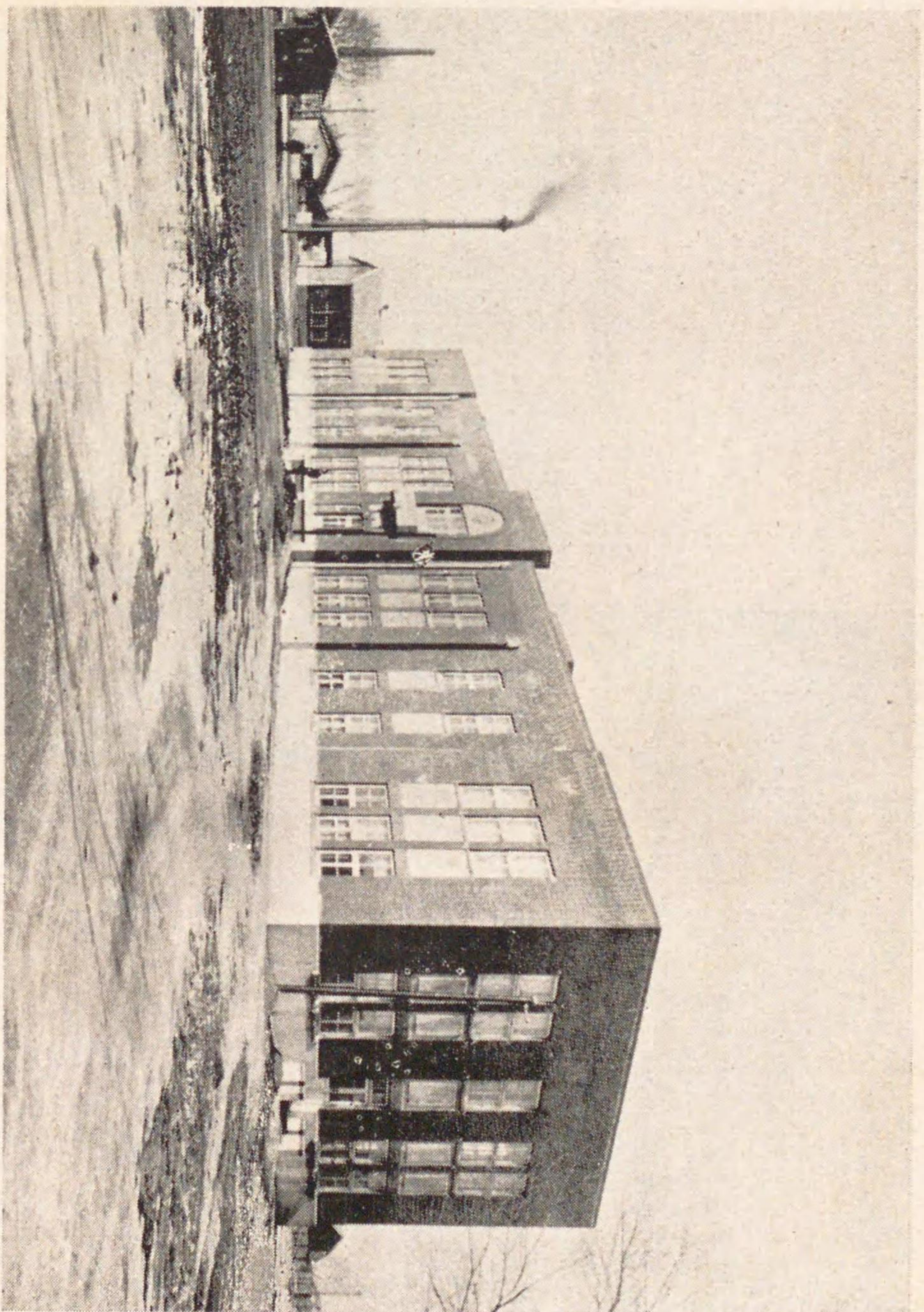




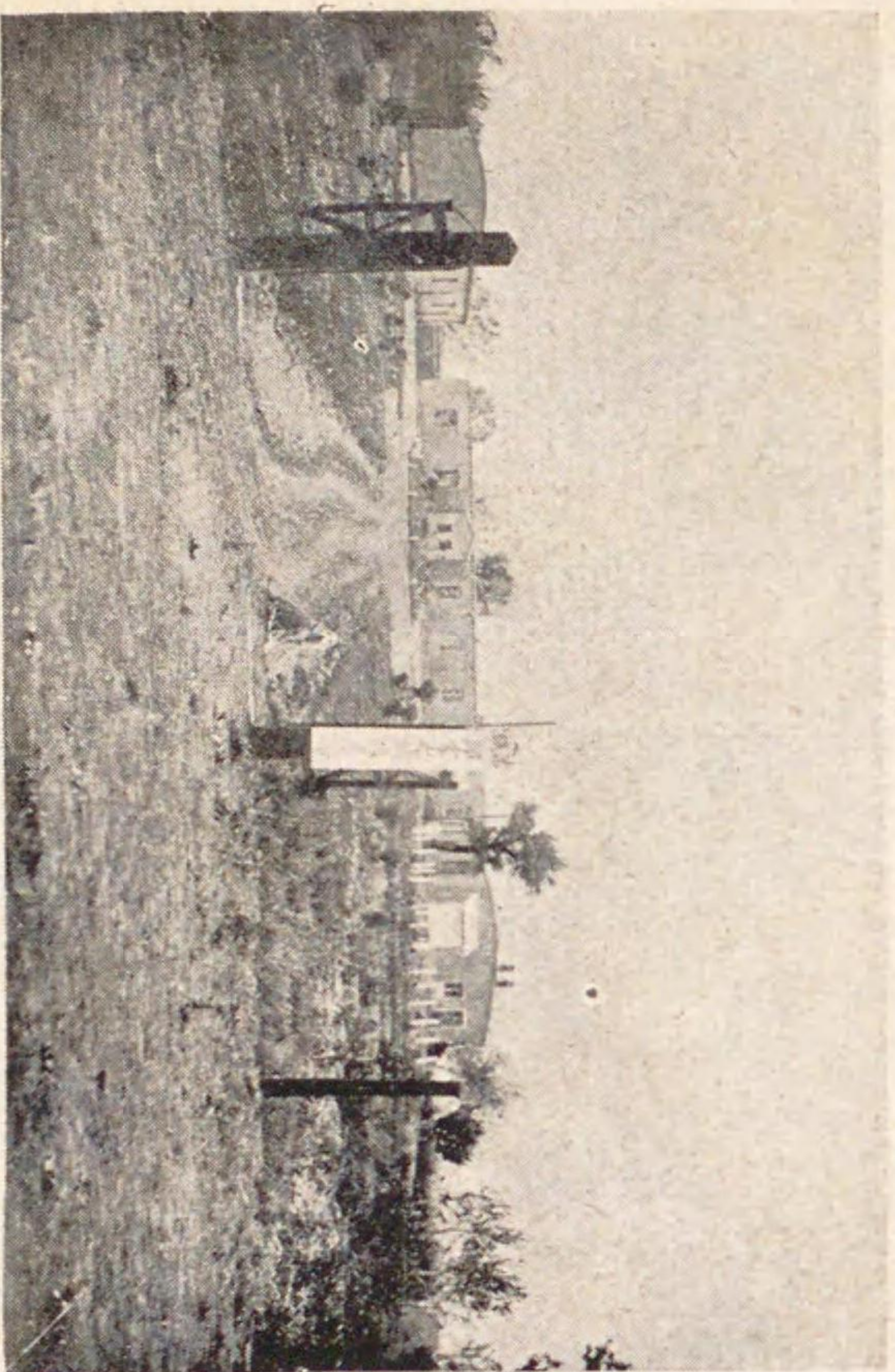
館本場本場驗試事農嶺主公



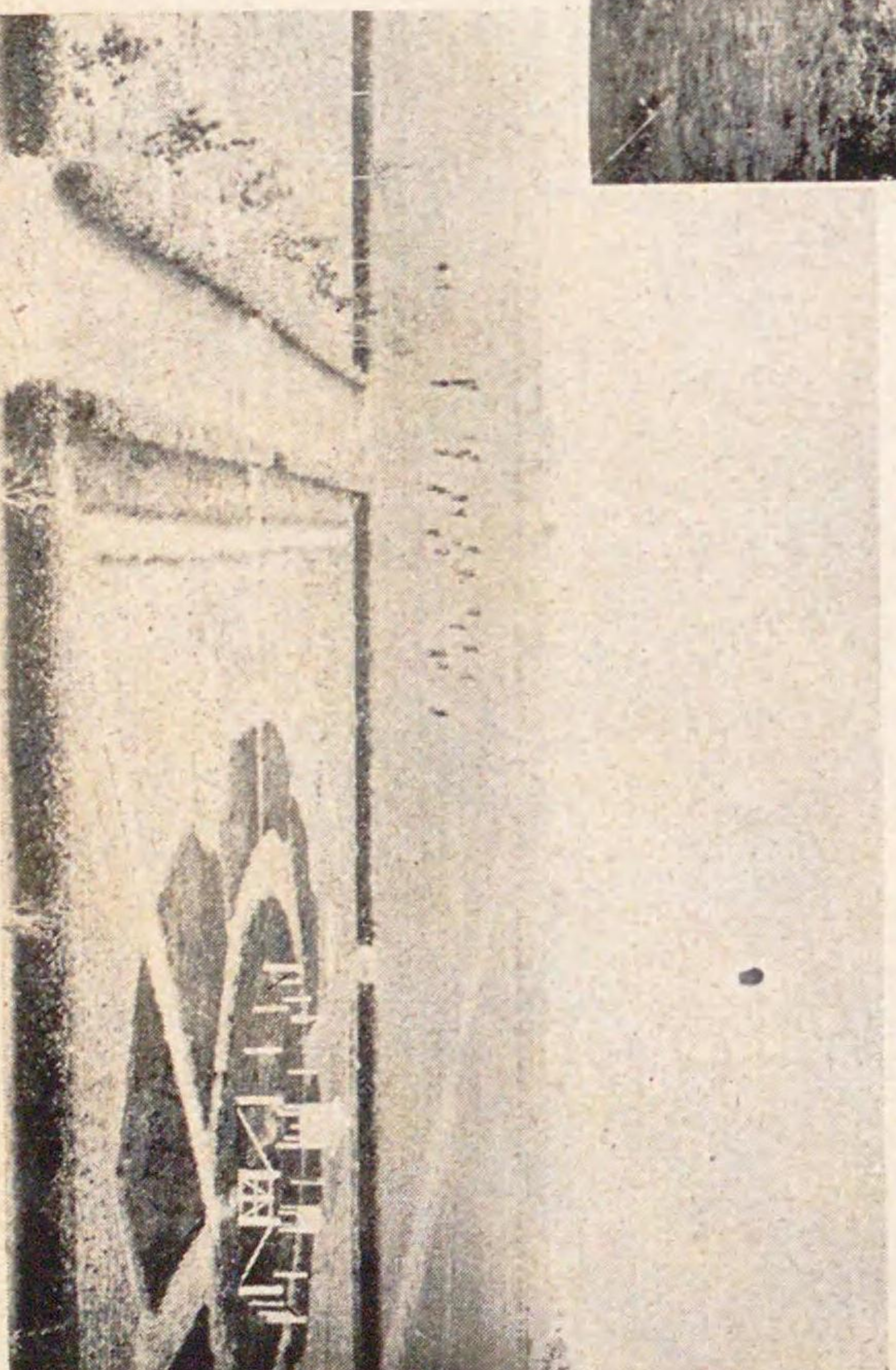
館本場分場驗試事農城岳熊



所 究 研 疫 獸 天 奉

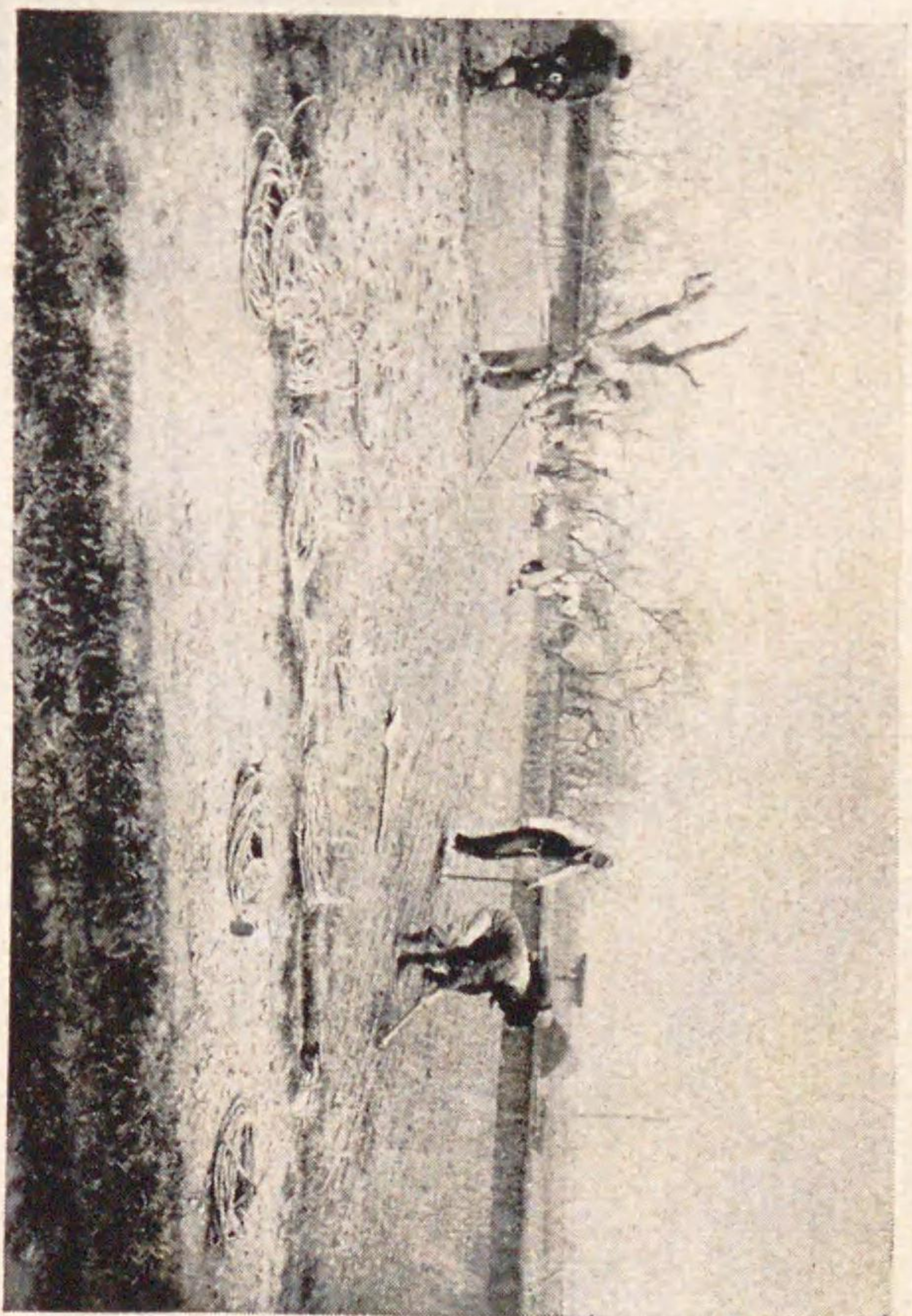
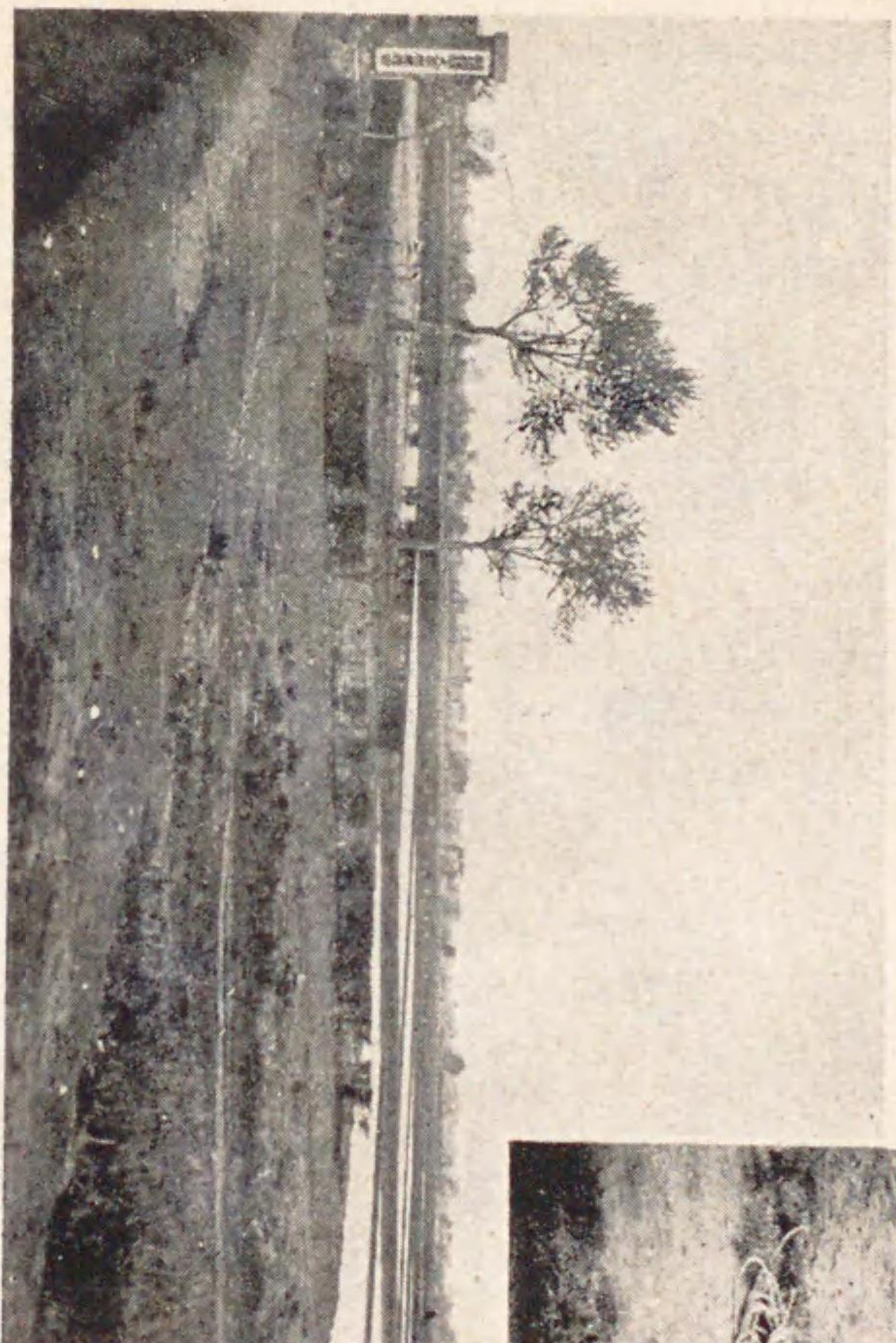


館 本 場 農 作 試 屯 家 鄭



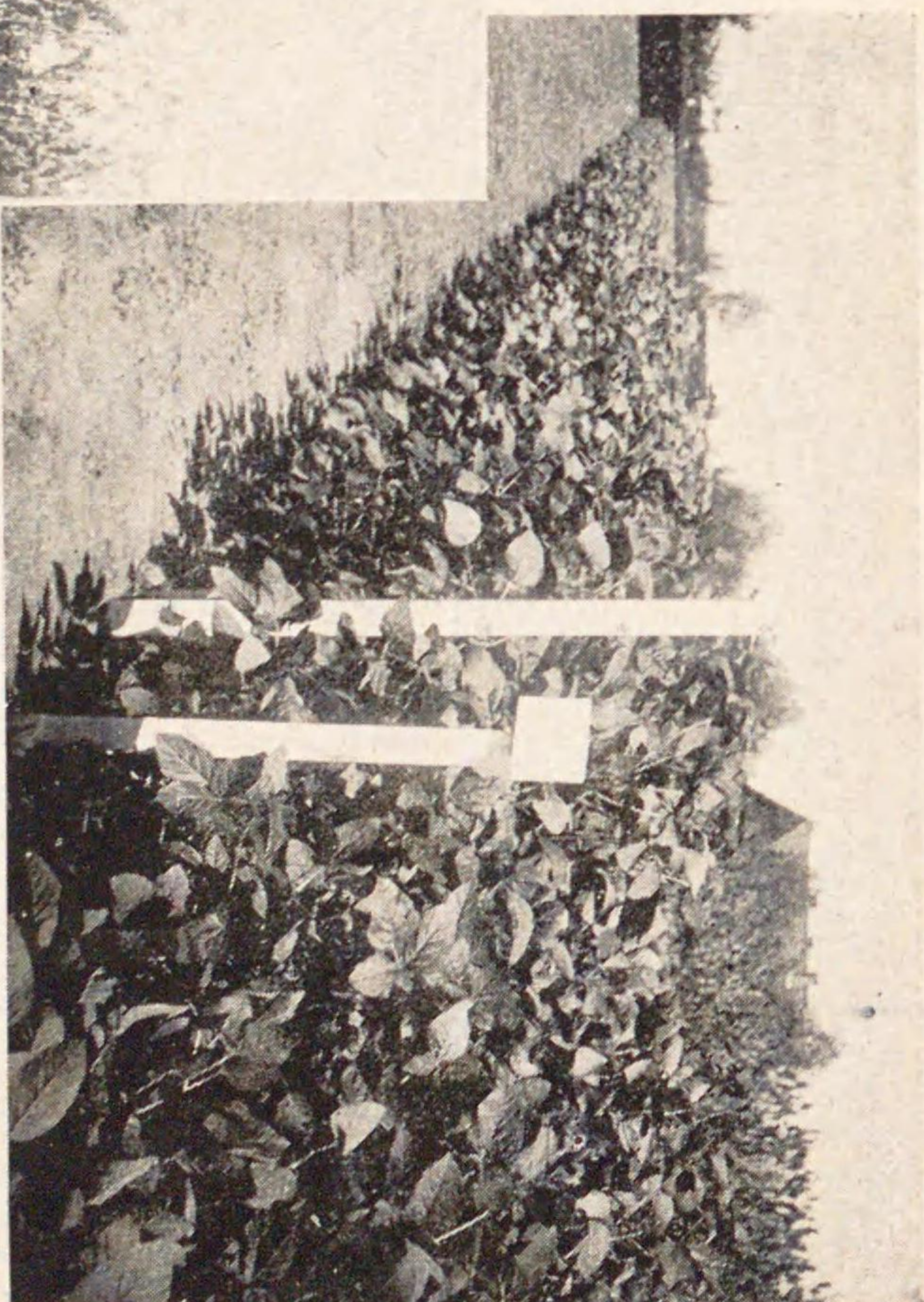
團 種 原 原 開

大 榆 樹 採 種 田

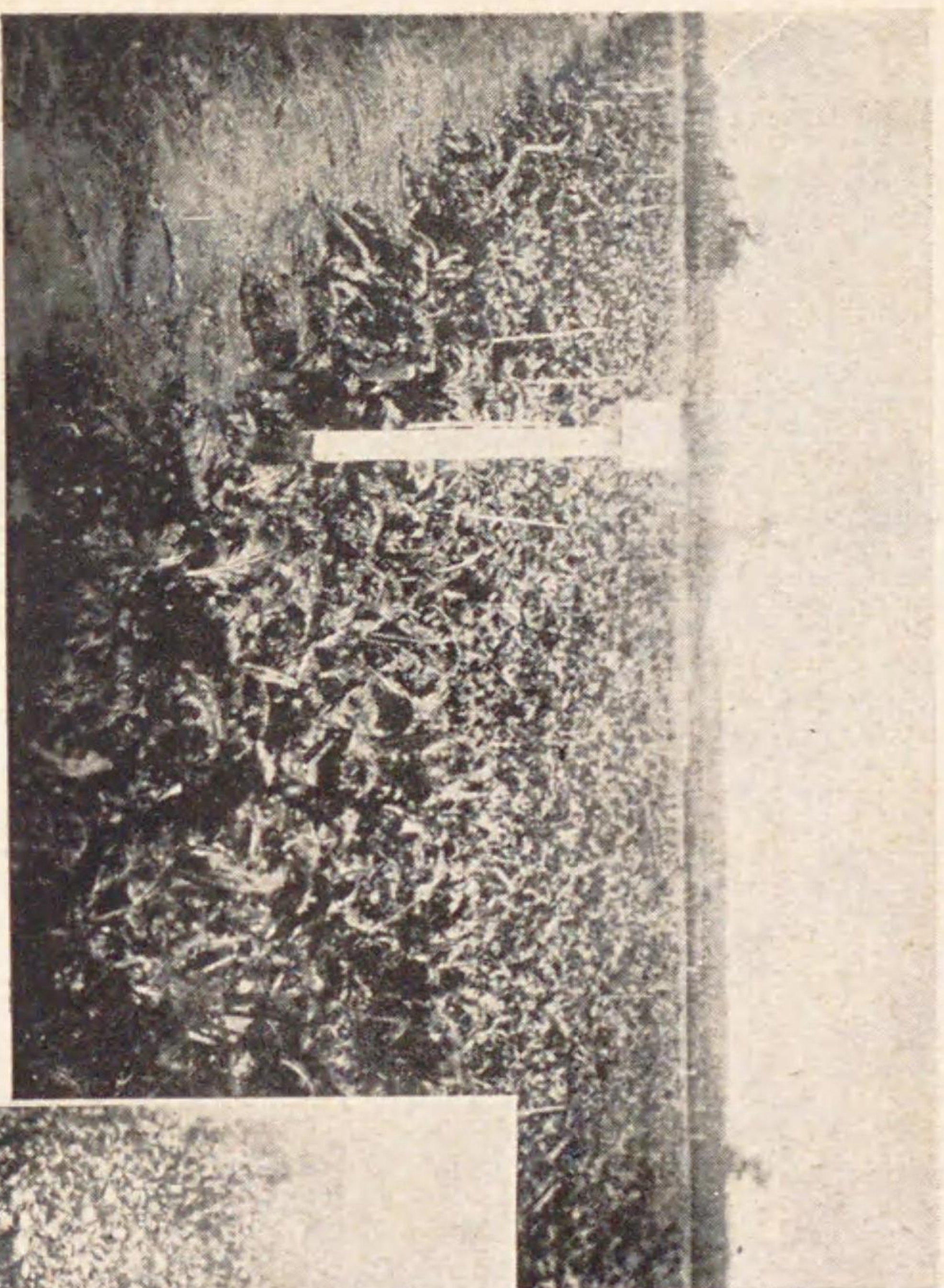


沙 河 口 苗 圃 於 是 苗 木 床 替 狀 況

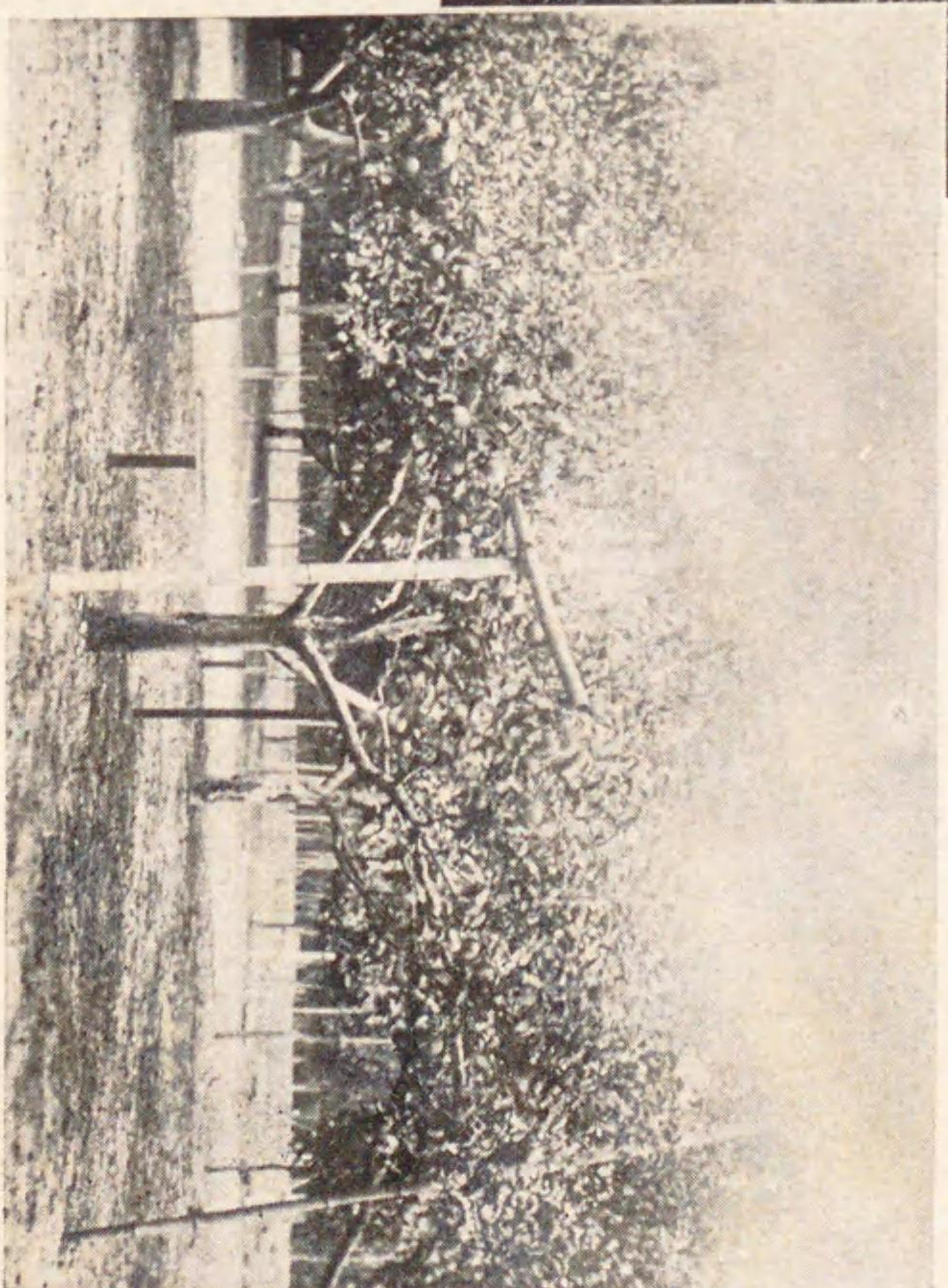
公 主 嶺 農 事 試 驗 場 高 粱 試 作



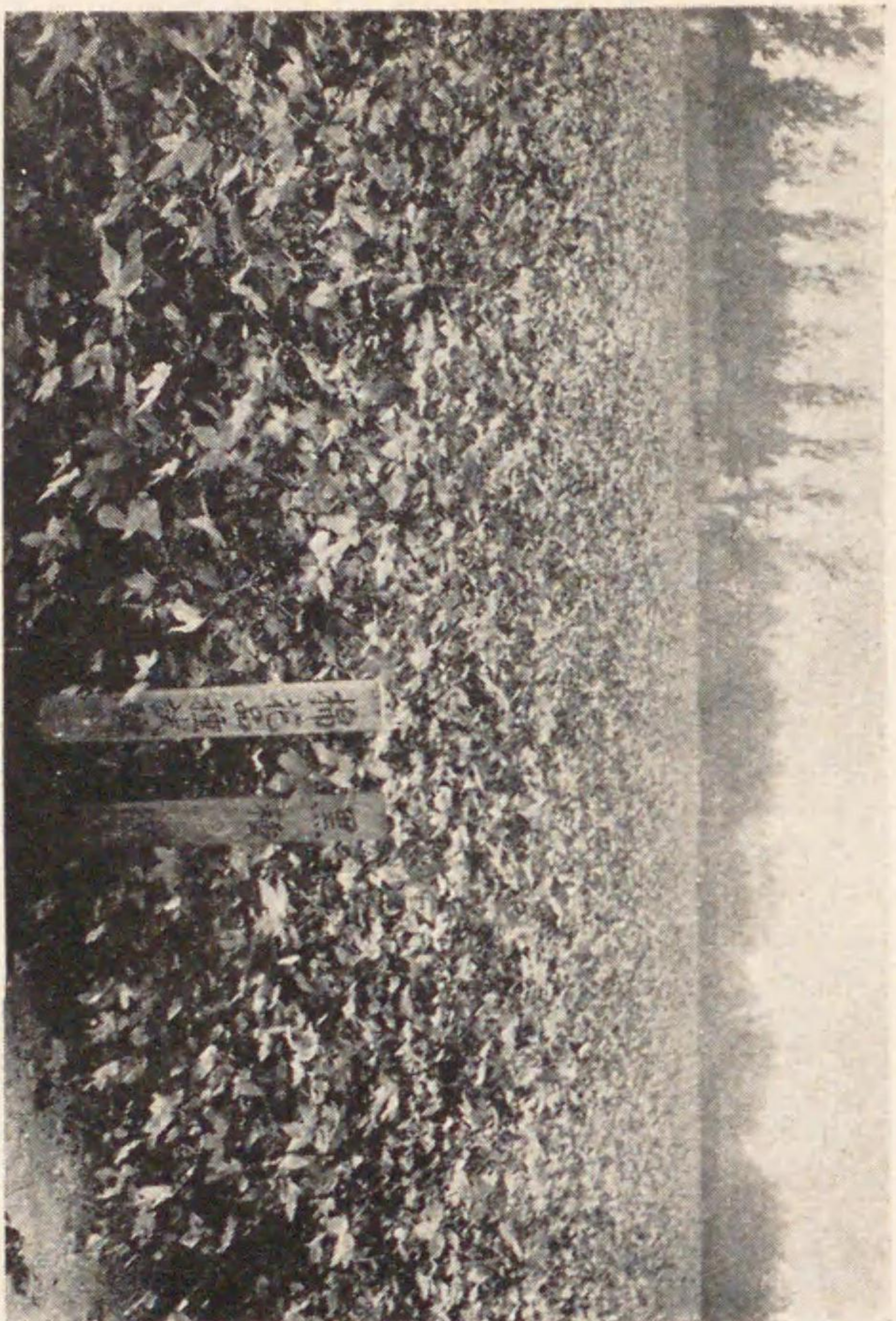
公 主 嶺 農 事 試 驗 場 大 豆 原 種 圃



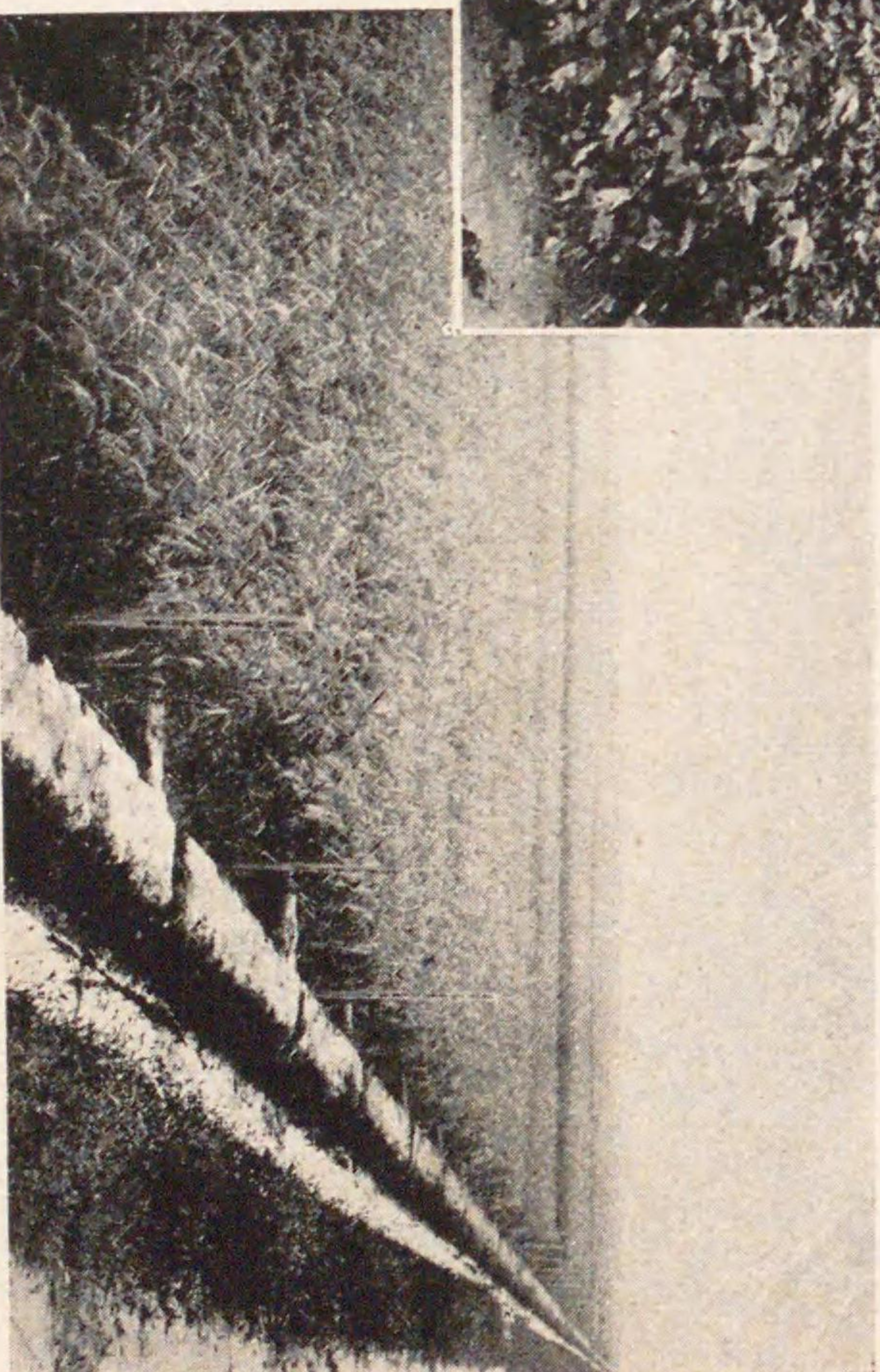
驗試種品菜甜場驗試事農嶺主公



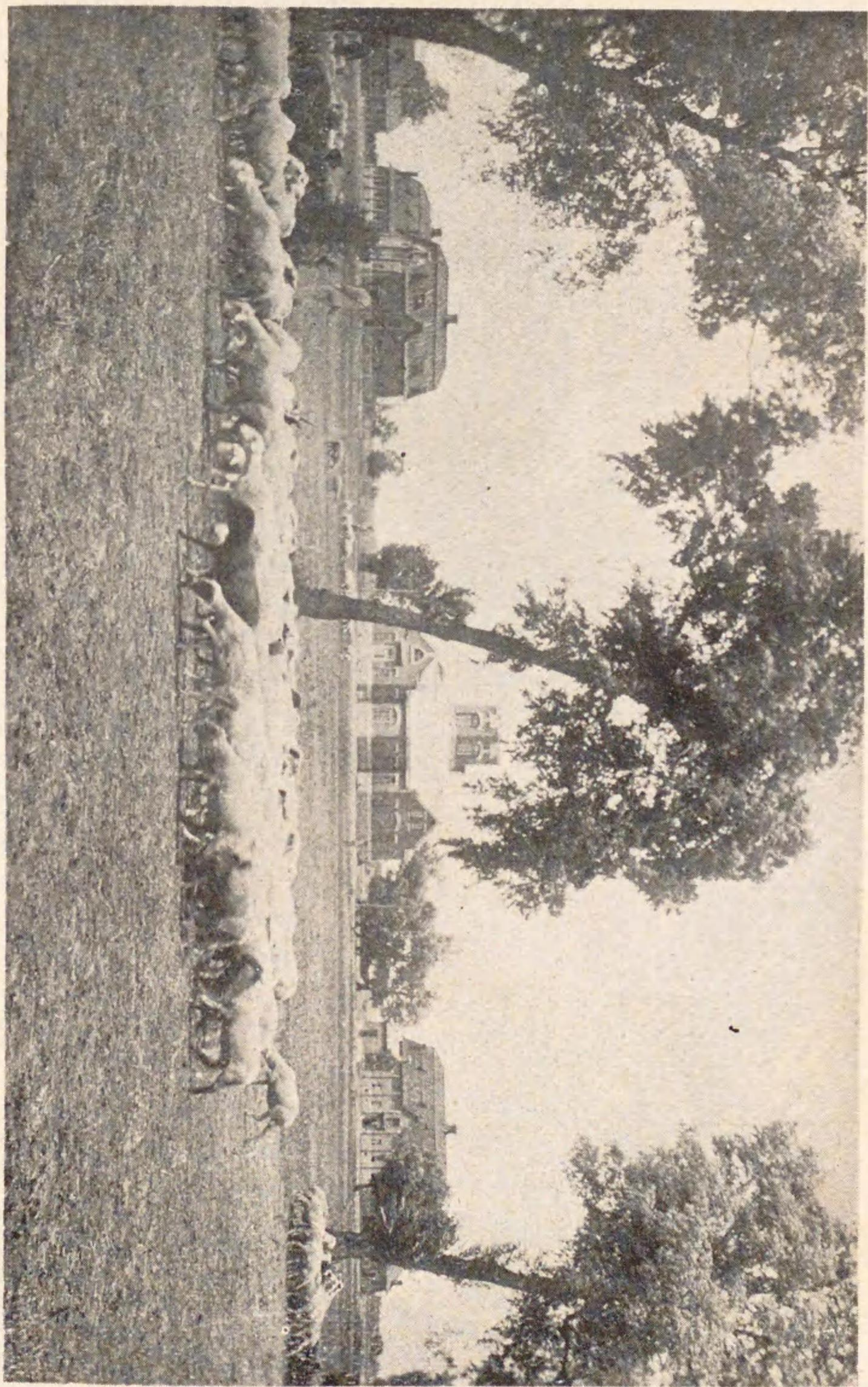
園果萃場驗試事農城岳熊



驗試種品花棉場驗試事農城岳熊



田驗試稻水場驗試事農城岳熊

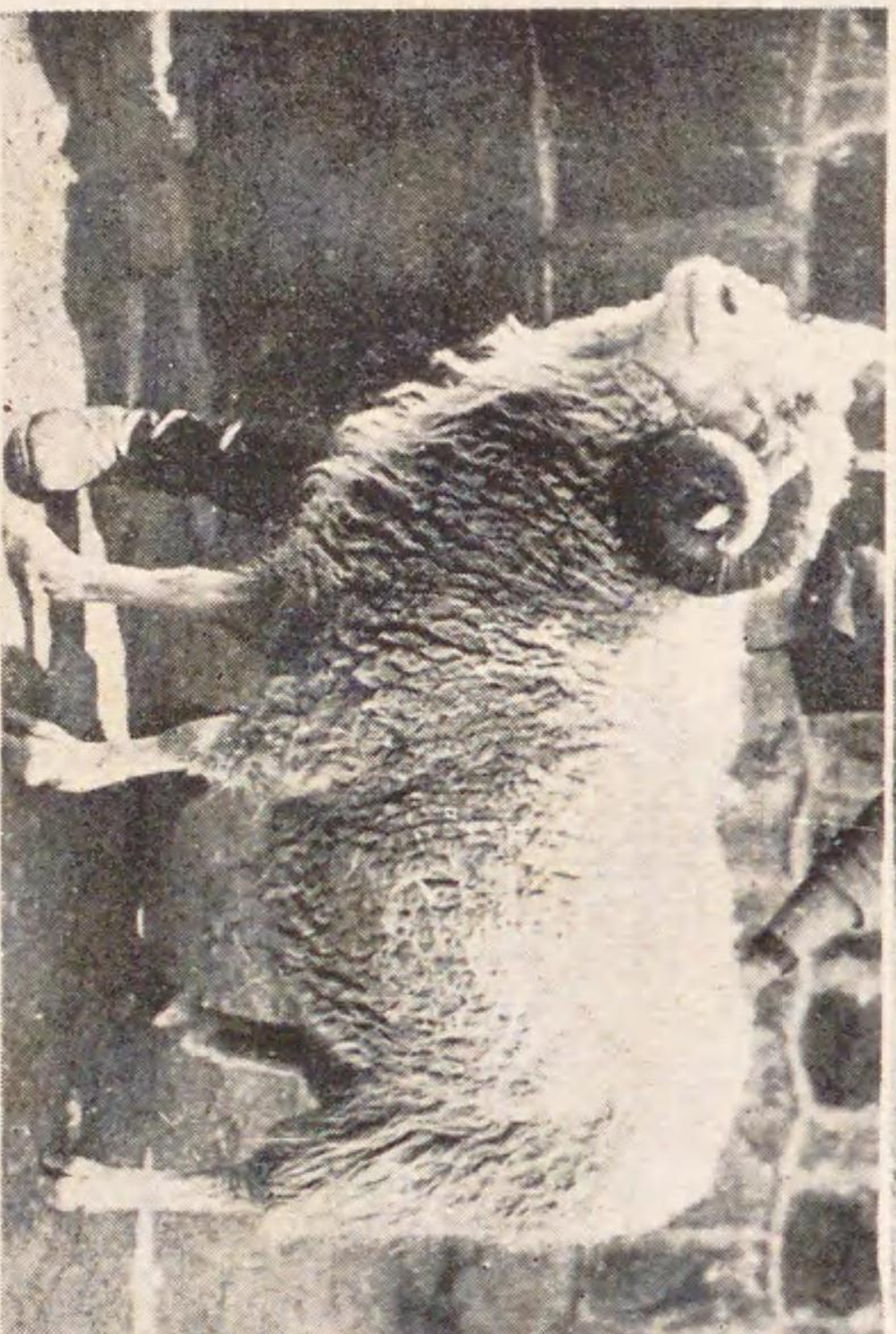


牧放の羊種場験試事農嶺主公

メリノウール種牡羊



蒙古在來種牡羊



羊牡種雜回一來在古蒙ーノリメ

羊牡種雜回二來在古蒙ーノリメ

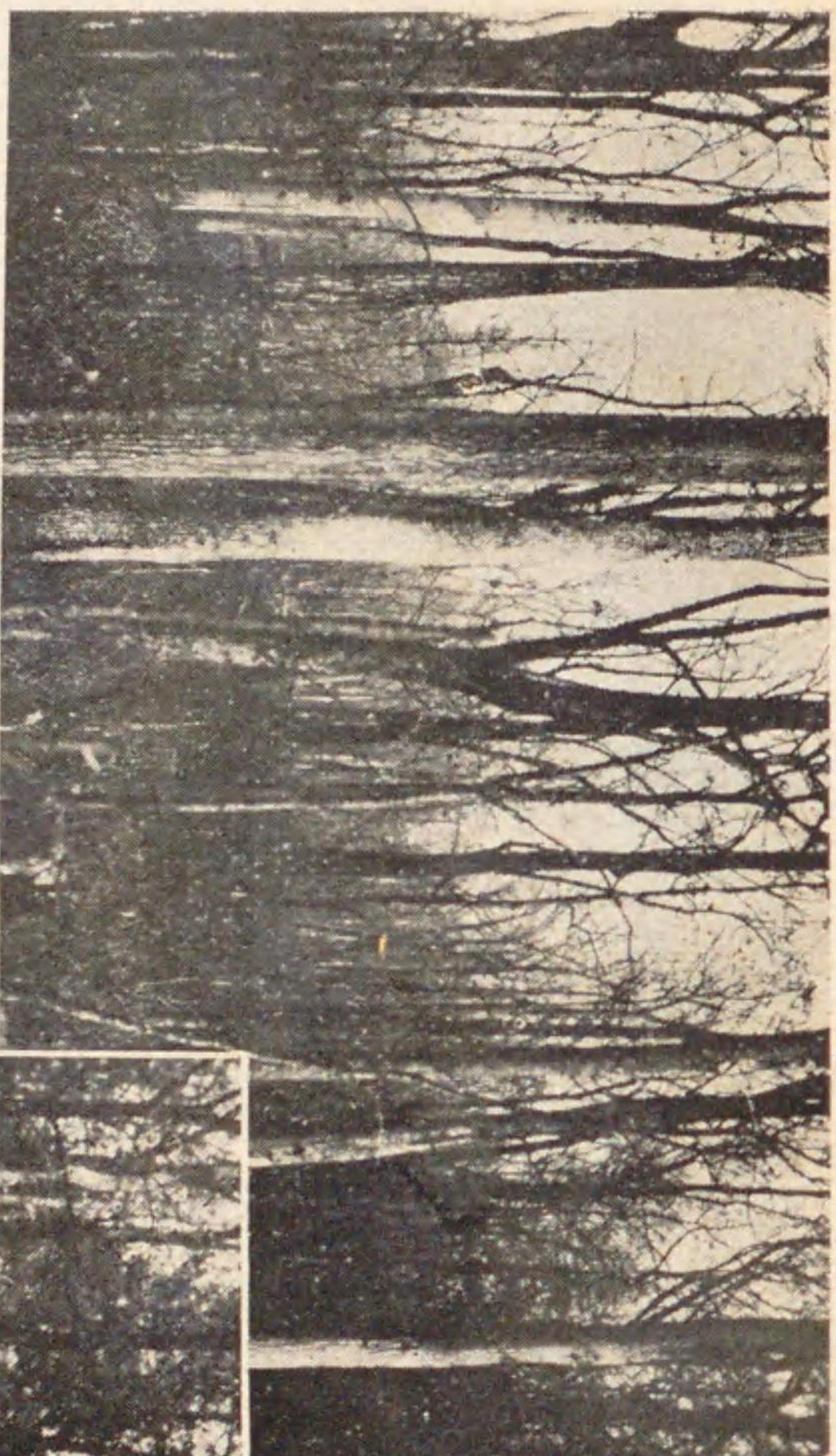
バシクシア種牝豚



滿洲在來種牝豚(大型)

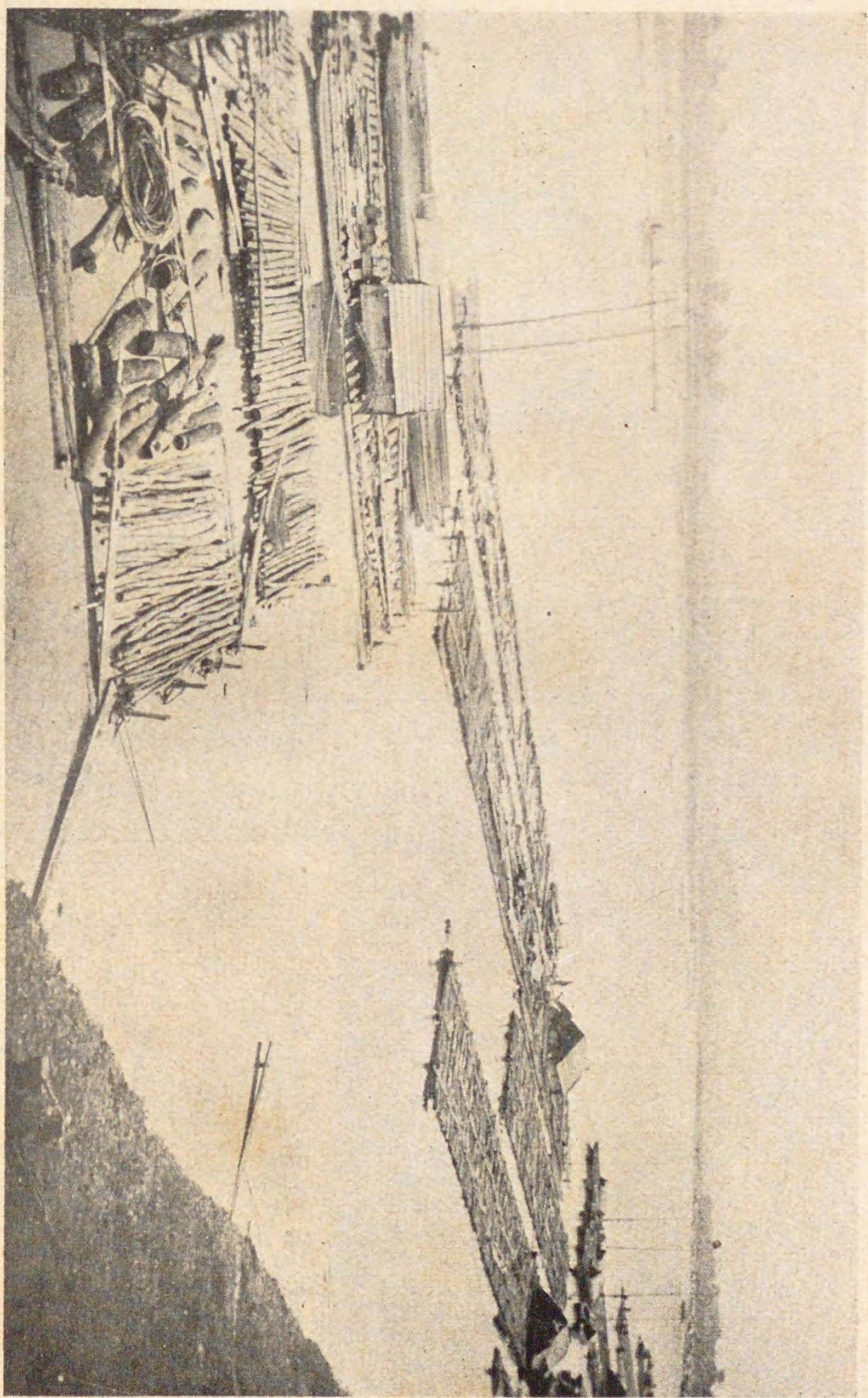
豚創種雜回一來在洲滿アシクーバ

(牡) 牛 洲 滿



吉林省瀾葉樹林

吉林省針葉樹林



松花江の堤

農業施設概要

第一 緒言

日華兩國は地理上、政治上、經濟上共に離る可らざる密接の關係に立つもので日華共存、隣邦親善の必要な事は喋々を要しない所である。滿蒙の地は特に日本と緊密な關聯を有するもので其の富源を開拓し産業を振興せしめ以て國民生活の資源を増殖し其需給を圓滑ならしむることは即ち共存共榮の實を擧ぐる所以であつて吾人の翹望して休まぬ所である。

滿蒙の地は天然資源を埋藏すること無盡藏とも稱し得可きは周知の

事であるが、土地廣く交通開けず人口又稀薄であるから其開發は殆ど原始的の儘に放置せられ遅々たるの状態にある。農牧林業の基礎的生産業方面に於ては特に増殖を促す可き餘地極めて大で他面には科學的研究改善を加ふるの緊要なるものあるを見る。

農は實に産業開發の基調をなすもので一國の隆替は農業の盛衰如何に懸つて存すること東西古今其軌を一にするものである。洵に滿蒙の農業を開發し利用厚生の実を揚ぐるは刻下の急務である。

南滿洲鐵道株式會社が開設以來十有餘年銳意農事の改良増進に努めて居る所以も亦茲に存するのである。勿論此目的の爲には獨り一滿鐵會社の力のみを以てしては到底之を期し難いもので民國官民の了解の下に提携協力することを前提とせねばならぬ。

以下敍説する所は滿蒙の農業に對する本社施設の概要であるが會社の設立は近年の事に屬し農業施設も漸く其緒に就きたるに過ぎないから今後は尙幾多の施設を要するは言を俟たぬ所である。

第一 農務課

明治四十年本社創立の當初から滿蒙開發の第一要義は滿蒙に於る農業の改良増殖を圖るにありとし同時に此事が會社營業の基礎を固くする上に最も重要であるとの見地から農業の改良増殖を目的として各種の農事施設を起さん希望を抱いたのである。先づ創業以來の數年間は其準備として他日の施設經營計畫を定むる爲に滿蒙の農業事情を調査し他面斯界の權威者に囑して大體の意見等を徴することに努めた。其後大

正二年初めて専門の擔任者を招聘して本社地方課に産業係を置き、農事の助長獎勵に關する仕事を秩序的に著手した。之は現在の農務課の前身に當るものである。

大正八年七月地方課産業係は地方部勸業課となり農務の外商工事務をも併せ扱ふこととなつたが大正十一年一月勸業課より分立して農務課が置かれ以て現在に至つたのである。

農務課は本社農業設施に關する中樞機關で農業の助長に關する事項を統べ各種の農事施設機關を統轄するもので第九に述ぶる農業助成は本課の主管する所である。本社農務課に對して地方的の農事施設機關としては農事試験場、苗圃、試作場、原種田及原種圃、採種田及採種圃、種畜場、獸疫研究所、農業學校等があり、又一般的には補助機關として地方事務所が

ある。農務課は之等の機關と協力して滿蒙農業の開発振興を圖つてをるのである。

第三 農事試験

一 概要

産業の進歩發達の原動力たるものは科學の力に存する。農業の開発も亦其基礎を科學的研究に置くにあらざれば完全の發達を期するを得ない、特に滿蒙の農業は未だ原始的の状態にあり其改良増殖に對しては科學的研究の必要を痛感するものである。本社は茲に鑑る所あり公主嶺に農事試験場本場、熊岳城に同分場を設け、滿蒙農業開發の淵源たらしめ別に湯崗子アルカリ試験地、鄭家屯試作農場、鳳凰城煙草試作場、長春、鐵嶺、遼

陽及安東の各苗圃をも併置し補助的の農事試験を行ひつゝあるのである。

此外滿洲には關東廳農事試驗場(州内金州)奉天、吉林、齊々哈爾の支那側三農事試驗場及哈爾濱、安達、乜河の露西亞側東支鐵道農事試驗場等を數へるが支那側の三試驗場は有名無實の如くであり、露西亞側の三農事試驗場も時局の影響を受け萎微振はざるの狀態である。

滿蒙の地廣く地勢、氣候、風土等自ら異なるものあり經濟狀態亦同一でない之等各地方の農業を調査研究し以て農事開發の淵源たらしむ可き農事の試験研究機關は到底現在數を以て足る可きものでない。且つ斯種機關の創設、維持費用の如きは極めて僅少で而も其舉げ得べき利益は蓋し甚大なるに想到せば滿蒙農業開發の第一手段として農事の試験機關を

各地に増設するの急務なるは言を俟たない所である。

左に本社農事試驗場本場、分場及各地農事試作場に付き其の内容一斑及業績の大要を略述する。

二 農事試驗場公主嶺本場

概要

大正二年四月に開設されたもので大正七年一月迄は産業試驗場と呼んでゐた。滿蒙に於ける農牧林業の改良増殖に關する各種の試験及調査を行つて其結果を一般に周知せしむると同時に優良種苗及種畜の育成を行ふを目的としてゐる。

位置 奉天省懷德縣公主嶺鐵道附屬地内

北緯 四三・三〇^度

東經 一二四・四八^度

海拔 二〇三^米

總面積 二、一一五、二九六平方米(六三九、八七八坪)

投入事業資金 (熊岳城分場を含む) 約 五十萬圓

支出總經費 (熊岳城分場を含む) 約 二百萬圓

最近年經費 (熊岳城分場を含む) 約二十餘萬圓

組織 場長の下に種藝科、農藝化學科、病理昆蟲科、畜産科の四科及庶務係を置く。

業績の一斑

(1) 大豆の改良

大豆は世界的商品として滿洲に於ける最も重要な作物と云ふ可く年産額約二千五百萬石(三百五十萬噸)に達し實に全世界生産額の半を占む。滿洲大豆の用途は多種多様なるも最も主なる用途は搾油用とする、而

して滿洲大豆は栽培調製の方法極めて粗雑なるを以て夾雜物多く異品種の混淆甚しく商品として聲價を墜すこと大である、加ふるに滿洲大豆は日本、朝鮮産大豆等に比し粒形甚だ小で其の結果種皮の割合多くして利用實質尠少なる缺點もある。

公主嶺農事試験場に於ては搾油用として大豆の改良を急務とし、油分含量及び收量多く外觀亦可良なる大豆の育成に努め遂に其の目的を達成した。即ち公主嶺附近に於て稍優良種と目せらるゝ四粒黄を原種とし純系分離の方法により優良種の選出に努めた。其の成績を示せば左の如くである。

原品種名	ヘクタール當收量	收量比較	含油量
如意珠(改良八十七號)	一、六七九	一〇〇	二〇・九三
	一、八五七	一一一	二一・一六

即ち以上二純型種は會社獎勵品種で原種に比し收量に於て約一割含油量に於て約八分宛の増加を示し品質又良好である、更に之を普通農家の栽培せる在來品種に比すれば實に五割乃至六割の增收で今假に滿洲大豆の作付面積を現在の儘とするも改良種普及の曉には年額一千三百万石以上の增收となり加ふるに品種の優良なることにより滿蒙の富源を増進すること偉大なるものがある。

(2) 小麥の改良

滿洲には約六百萬石の小麥を産するが年に依つて豊凶の差が甚しい本試験場に於ては大正四年以來品種の改良に着手し、大正十年に至る七箇年を費して之を完成するに至つた。即ち左の三型を分離し得たのであ

る。其成績は次の如くである

品 種 名	ヘクタール當收量	收量比較
原 種	一、四四九 _ル	一〇〇
改良三號	一、四九二	一〇三
改良六號	一、五〇三	一〇四
改良二十四號	一、四八二	一〇二

改良種は原種に比し僅に三、四分の增收に過ぎざるも其品質に於ては遙に優良である。大體小麥は南滿よりは北滿に適するので滿蒙の小麥を改良するにはどうしても北滿を目標としなければならぬのであるが公主嶺では氣候の關係上十分なる成績を挙げ得ないのは遺憾である。

(3) 陸稻の改良

滿洲に於ける米の産額は年々水田の開拓と共に増加するが水利の便

を缺く地方では陸稻栽培の有利なるを見る、乃ち陸稻品種の改良亦必要
缺く可からざるもので本場は公主嶺附近の在來種金線稻子を原種とし
て大正四年以來純系分離を開始し大正十一年に至り左記四系を得た、其
增收歩合を示せば次の如くである。

原種	品名	ヘクタール 當支米收量	收量比較
改良十三號		一、六三八	一〇〇
改良十九號		二、二九七	一四〇
改良三十三號		二、〇六三	一二六
改良四十一號		一、八二一	一一一
		一、九六六	一二〇

即ち原種に比し多きは四割の增收にして粒揃整一、品質良好である。

(4) 甜菜品種の育成

甜菜は甘蔗と竝立する製糖原料作物であるが十數年前から北滿には
露西亞人の手によつて栽培せられてゐた。本場に於ては其設立當時より
之れが試作を開始し、各種試験施行の結果歐米主産地に比し敢て遜色な
く頗る有利なる新作物たるの成績を得た。即ち一ヘクタール當收量約三
萬盞根百分中含糖量約一八%あるを以て優良作物たるを確め大正四年
より更に「ヴルモーランスインプルト・ホワイト」及び「クラインワント
レーベン」の兩種につき收量竝に糖分の向上を企て優良系統の選出に努
め、目下尙其育種繼續中であるが大體純型分離を完成するの域に達して
ゐる。

(5) 緬羊の改良

蒙古に産する緬羊はよく氣候風土に慣れ強健なる長所はあるが毛質

不良で毛量亦少ないのを著しい缺點とする。蒙古人は肉と毛皮とを目的として、緬羊を飼育するも文化の度進むに従つて毛皮の利用は毛織物の利用に進むべきもので、現在の毛皮用として可良なる蒙古羊は採毛用としては甚だ不良なるものであるから之を採毛用に改良する必要がある。公主嶺農事試験場に於ては大正三年畜産科創設以來蒙古羊の毛質改良、毛量増加の試験研究に努力しメリノー種、サウスダウン種、シエロップ種、シア種、カクアル種等世界に有名なる優良種を入れて研究の結果メリノー種を以て容易に改良の目的を達し得べきことを明にした。公主嶺農事試験場に於ける改良法は改良原種としてメリノー種を用ひメリノー種の牡羊と蒙古種の牝羊とを交配して第一回雜種を作り、第一回雜種牝羊にメリノー種牡羊を配して、第二回雜種を作るにある。斯く

して生ずる第二回雜種は其の半數はメリノー種と全然同一の性質を有し其の半數は第一回雜種と同性質である。此の第二回雜種中の半數を占むるメリノー種と同型のもは即ち固定雜種にして其の牡を以て蒙古牝羊に配するときにはメリノー種を用ひたる場合と全く同じ改良の效果を得るものである。蒙古緬羊には繊美な緬毛 (Wool) 少く粗剛なる毛髮 (Hair) 多きを以て製絲、織布用に適しないものであるが之にメリノー種を交配して得たる第一回雜種は緬毛著しく増加し粗毛減少する許りでなく毛量は母羊の二倍に上るを見る。而して第二回固定雜種に至れば粗毛は全く消滅して緬毛のみとなり毛量は三倍に達する。此雜種改良によりて肉質は影響されることなく而も毛質の向上により毛の單價は三倍に達するを以て將來改良の結果現在東蒙古を合せて四百萬斤、百二、三十

萬元の産毛は一躍一千二、三百萬斤、一千四、五百萬元に増加することを得べきものである。

(6) 豚の改良

滿蒙の農家には六百餘萬頭の豚が農家の副産物によりて飼育されて居る。生體量二百五十斤、成熟期間二箇年半の大型種と生體量百二十斤、成熟期間一箇年の小型種及此二種の間、の形態並性質を有する中型種の三種に大別することが出来る。何れも蕃殖率は高いが體軀瘠せ肉量少く成熟期間長く飼料の利用能率の劣ることを缺點とする。

公主嶺農事試験場では試験の結果「パークシア」種を各種在來種豚に交配すると容易に之を改良し得ることを明かにしたのである。「パークシア」種を大型在來種に交配して雜種をつくると、同一同量の飼料を與へ同様

の管理によつて一年半で大型在來種豚と同様二百五十斤の生體量に達するのである。屠體歩合に於ても在來種は八〇%であるが、雜種は八五%に上るのである。此の如く「パークシア」種の血を入れると現在の飼料を以て滿蒙の地に於て更に二、三百萬頭の豚を増加することが出来るのである。

(7) 各種試験

以上は品種改良に成功し試験も一段落を告げた主要項目であるが此外普通作物及特用作物の品種試験、耕鋤に關する試験、輪作に關する試験、在來農法に依る作物收支試験、土性調査、肥料試験、其他農藝化學的試験、昆虫病理に關する試験、仔羊毛改良試験、獸醫に關する試験、飼料作物試験等を施行しつゝある。其内纏つた成績は其都度發表せられてをるもので茲

には其記述を省略することとする。

(8) 見習生養成

本社は大正三年三月農事試験場見習生規程を設け滿洲農家の子弟で農學校又は公學堂高等科卒業又は日本語を習得した者は隨時之を入場せしめ、被服及手當を給し、試験の事業を傳習し農業技術を習得せしめつゝある、修業年限は二箇年で邦人も亦見習生たることを得る。之は彼等をして農事試験事業の趣旨を了解せしめ滿蒙農業開發の第一線の士たらしむるを目的とするもので極めて有意義の事と言ふ可きで着々成功を納めて居る。

三 農事試験場熊岳城分場

概要

熊岳城農事試験場は明治四十二年熊岳城苗圃として創設されたもので當時は主として沿線植樹用樹苗生産の傍ら果樹蔬菜及一般作物の試作を行ふて居たのである。大正二年公主嶺本場の開設と同時に内容を充實し組織を改めて産業試験場分場となり次いで農事試験分場と改稱せられた。

位置 奉天省蓋平縣熊岳城鐵道附屬地内。

北緯 四〇・二三^度 東經 一二二・一一^度 海拔 二二二^米

面積 四六二、四七〇(一三九、八九八坪)

事業資金、經費 (本場の項参照)

組織 分場長の下に園藝、種藝、養蠶、林産の四科及庶務係を置く。

業績の一斑

(1) 水稻品種の育成

満洲に於ける水稻栽培の歴史は極めて新しく僅に四、五十年來のことに屬する。満洲の氣象狀況、地形、土質等より考慮して満洲に於ける水田事業は甚だ有望であつて將來大いに勃興し得可き可能性を有する。現在の水田面積六萬餘町歩、收量(粃)約百八十萬石と稱せられてをるが將來之れを百萬町歩、三千萬石程度に上すことは困難でないと思せられる。本試験場は大正二年試験事業開始以來水稻の試験に努力し、内地東北地方の早生大野、龜の尾の兩種が當地方に好適なることを確め、純系分離によつて優良品の育成に努めた、左に挙げたものは會社獎勵品種で其の成績の一端を示すことにする。

品 種 名	玄 米 收 量		収 量 比 例	備 考
	反 當	ヘクタール當		
紅光頭兒(在來種)	二・三七一 ^石	三、四五〇 ^石	一〇〇	十箇年平均
大原(改良四十九號)	三・〇二六	四、四八五	一二八	四箇年平均
萬年(改良百十二號)	二・六八四	三、八七七	—	大正十三年度
紅 糯(赤 糯)	二・八八九	二、九二三	—	同

目下南滿各地に栽培されて居る水稻は主として朝鮮の改良されない在來品種であつて日本米に比し品質も不良であり收量も尠い、改良種は在來種に比すれば一割乃至三割の增收を示し尙品質の點に於ては格段の差を有するものであるから一般農家の認むる所となり漸次普及しつつある。

(2) 果樹試験

滿洲は果樹の種類に乏しく葡萄と梨に比較的優良なるものあるも其産額甚だ少く果實類の輸入年額數百萬圓に上る現況である、本場に於ては遼東半島の氣候風土より見て苹果の栽培に適することを洞察し開設以來主として苹果の品種試験に努力し優良品種の選定に成功した、内會社の獎勵品種は國光、紅玉、紅魁、黃魁、祝、初日出、元帥、翠玉、祥玉、金花(ウイリアム)旭の各種である、尙梨、葡萄、杏に就ても優良種の選定を行ひ内會社の獎勵品種に定めたものは梨——紅梨、鴨梨、白梨、巴黎(パートルレット)楊貴梨(デュッセ、ダングレーム)白洋梨(ホワイト、ドワイアンヌ)日面紅、琵琶梨(ビー、バリ)の各種、葡萄——晚香玉、白雞心、龍眼、黑罕坡(ブラック、ハムブルグ)玫瑰香、嬌娘(ジョナ)蜜露(ミルス)華盛頓(レデー、ワシントン)の各種、杏——二杏梅、李子杏、大杏梅の各種とする。

(3) 棉花の試験

滿洲も奉天以南の地には氣候、土質から見て棉花の栽培が可能である。現在遼陽附近には澤山栽培されてゐるが品質が紡績に適せず收量も少い。熊岳城に於てはすでに四箇年間の試験を行つて熊岳城以南の地に於ては陸地棉の栽培が可能なることを闡明した。

(4) 各種試験

以上の外蔬菜、花卉試験、各種作物品種試験、養苗造林試験、家蠶、柞蠶及桑園の試験を行つてゐる、其内纏つた試験は其都度發表せられてをるもので茲には其記述を省略する。

(5) 見習生養成

本場見習生養成の場合と同様である。

四 農事試作場

(1) 鄭家屯試作農場

鄭家屯は東蒙古の門戸を爲す重要地點であるのみならず古くより開墾され農産物の出廻りも多く植樹造林思想の普及して居ること他に比を見ないのである。鄭家屯試作農場は同地方の農産物、家畜、造林等の改良指導を目的として設立されたのである。即ち大正五年地を鄭家屯市街を距る西北一里餘、遼河畔に選り六萬八千九百八坪(約二十三町)の地を買収し翌六年から事業を開始したもので本社農務課の直轄となつてゐる。大豆、高粱、粟等の普通作物は勿論蒙古の特産物と稱せられる甘草、其他大麻子、苘麻、ルーサンの試験を行ひつゝある。尙パークシヤア種々豚を繋養し在來種豚改良の爲配付す可き種豚の蕃殖育成を行ひ尙大豆奨励品

種の育成をも十五年度より行ふことになつてゐる。此外大正十四年一月一日より關東廳の委託を受け三回氣象觀測も開始してゐる。
(附) 海龍城試作農場
柳河縣、海龍縣地方は有名な大豆の産地であつて其他普通農産物も亦多い。之等地方の農産物改良の目的を以て少規模にて大正十年度から開設されたもので、鄭家屯試作農場同様本社農務課の直轄となつてゐたのであるが大正十三年度末を以て一先閉鎖することとなつた。

(2) 湯崗子アルカリ試験地
滿洲にはアルカリ土壤が相當の面積に亙つて散在し特に蒙古の平原には多い。酸性土壤の改良と共にアルカリ土壤の改良は農學者の困難とする所であるが其利用の如何は滿蒙農業開發上重大な關係をもつもの

である。本社は大正三年以來大石橋附近白旗に於てアルカリ土壤に適する作物の種類試験、アルカリ土壤の利用法、肥料とアルカリ土壤關係等について試験し來つたが事業實施上不便な爲大正六年湯岡子驛附屬地内に之を移して從來の試験を繼續すると同時に水稻作の試験を開始し水稻がアルカリ地に對し相當に適應性の強いことを確め得た。

(3) 鳳凰城煙草試作場

滿洲には年々約五千萬斤(七、八百萬貫)の葉煙草が生産されるが喫味辛辣で品質不良であるのみならず反當收量も少く調製法も不備な爲紙巻煙草の原料とすることが困難である。従つて年々外國から滿洲へ輸入される製造紙煙草の額は七、八百萬圓に上るのである。滿洲の氣候、風土から考へて相當な煙草が出来るものとの見地から本社は公主嶺農事試験場

の試験成績に鑑み大正七年地を鳳凰城にトして米國種黄色煙の栽培を試み得利寺に於ては主として日本葉の試験及支那在來煙草の改良試験を行ふことにしたのである。

鳳凰城煙草試作場は面積一萬三千九百七十坪餘、主として米國種煙草を火力乾燥法によつて試験した結果成績良好で日本内地及朝鮮の煙草試験に比し遜色なき好成绩を示し附近の農家も争ふて之を栽培するに至り現在に於ては鳳凰城、高麗門地方の重要な生産物たる基礎を爲すに至つた。

元來鳳凰城煙草試作場は大正八年度より東亞煙草會社の懇請により無料貸與し主として前記の如く米國種黄色煙草に就き試験を行つて來たのであるが、會社の都合により十三年度末に回收し、十四年度より更め

試作事業を開始することとなつた。三平對米一圓計十四年對米一圓計
次に當場に於ける栽培試験成績を表示すれば次表の如くである。

米國種一貫目三圓内外、日本種二圓内外、支那種一圓内外である。

年次	米國種		日本種		支那種	
	エロイコ	ブライト	秦野達	摩柳葉尖	商湖頭	
大正七年	六〇・四〇〇	七〇・六五〇	六五・〇〇〇	六六・〇〇〇	二二・三〇〇	二一・六〇〇
大正八年	四七・〇四〇	五一・七七〇	三九・九四〇	三七・二二〇	一一・九一〇	一〇・七七〇
大正九年	三四・八〇〇	三五・七〇〇	二六・三四〇	三三・九〇〇	二二・〇〇〇	一一・三二〇
平均	四七・四一〇	四八・九七六	四七・〇九三	四五・七〇六	一九・〇六六	一五・二九〇

即此成績に依るも米國種と日本種の間には收量の甲乙は殆んど無い
が支那種は非常に劣つてゐる。價格は米國種一貫目三圓内外、日本種二圓
内外、支那種一圓内外である。

(附) 得利寺煙草試作場

得利寺煙草試作場は鳳凰城の夫と同じ目的を以て同時に開設された
もので面積六千九十三坪、主として日本葉の試験と支那葉の改良試験
を行ひ來つたが其成績亦支那葉に比して著しく良好である。普通作物よ
りも有利である爲め附近農家に於ても栽培希望者が多いのであるが日
本種は少數の在留邦人の需要を目的とするに過ぎないので將來大量生
産を豫期することが出來ない爲め日本種は試験に止め一般民間には漸
次米國種煙草を普及獎勵したい考へである。因に同場では三年前より特
に草棉の試作を施行して居る。

斯く得利寺煙草試作場は大正七年事業開始以來日本種、支那種、米國種
の試験を行ふ傍ら棉花試験も實施中の處會社の都合により十三年度末

を以て一先閉場することとなつた。

(4) 長春、遼陽、鐵嶺、安東各苗圃
之等四苗圃に於ては樹苗を養成する側ら其の一部にて農事試験をも行つて來たのである。即ち長春苗圃では明治四十三年創設以來約十一町歩の試験地を有し、小麥、陸稻、燕麥、亞麻、甜菜、水稻等の試験を行つて來たのであるが、小麥、燕麥、水稻の試験を完成したのみで大正九年から用地の關係上(移轉)試験を廢止するに至つた。

遼陽苗圃に於ては蕎麥、小麥、除虫菊の試験を完了し、目下棉花に就き試験中である。安東苗圃も亦棉花の試験を行つてゐる。

鐵嶺苗圃に於ては桑、燕麥、亞麻の試験を完了し其他の作物については猶試験を繼續中である。

第四 優良種苗及種畜の育成

一 概要

農事試験の結果其の地方の氣候風土に適した優良種苗及種畜を選出し得たる時は之を育成し廣く一般農業者に配布して初めて農業増殖、改良の目的を達し得可きものである。元來農事試験場及試作場等は試験を主眼とするもので試験の結果選出し得たる優良種の育成及普及は別箇の機關によつて行ふを捷徑とするもので試験事業と普及事業とは全く目的を異にするものである。而して大豆、水稻等の農作物の優良種子育成には先づ原種圃及び原種田に於て原種子を作り之を採種圃及び採種田に配布し採種圃及び採種田は更に一般農家に配布す可き種子を生産す

るを普通の方法とし種畜は種畜場(種馬牧場、種牛牧場、種羊場、種豚場等)を設置して種畜を生産し之を一般に配布或は貸付けを行ふを普通とする。

本社農事試験の結果優良種の選定に成功した主要なるものは大豆、水稻、果樹、羊、豚で之等の普及は滿蒙農業開發に重大な關係をもつものであるから本社は其普及を圖るを目的とし原種田圃、採種田圃及種畜場を設け優良種の育成に努めてゐるが未だ事業着手勿々でもあり支那側の無自覺等の關係もあり現在數を以てしては到底所期の目的を達するは困難である。將來は日華提携して事業の促進を行ふを急務とする。

二 大豆獎勵品種の育成

開原、大屯原種圃、農事試験場、公主嶺本場及鄭家屯試作農場

大豆優良種として本社の獎勵する品種は如意珠及黃寶珠の二種で其

育成は開原原種圃(大正十一年開設、面積約三十七町歩、年配付額約八十石) 大屯原種圃(大正十三年末孟家屯より移轉、面積約二十六町歩、年配付額三十石)及公主嶺農事試験場本場(年配付額約八十石)に於て行ひ改良大豆合計約百九十石を日支農民に配付しつゝある。

尙鄭家屯試作農場に於ても十五年度より獎勵品種の育成を行ふことになつてゐる。

三 水稻獎勵品種の育成

奉天、大榆樹採種田及農事試験場、熊岳城分場

水稻優良種として本社の獎勵する品種は大原、萬年、紅糯(以上南部適種) 京租、嘉笠(以上中部適種) 北海、田泰、青盛(以上北部適種)の八種で其育成は奉天採種田(大正十三年開設、面積約六町歩、年配付額約粃二十三石) 大榆樹採

種田(大正十一年開設、面積約十餘町歩、年配付額約粍九十石)及農事試驗場熊岳城分場(年生産額約粍四十五石)に於て行ひ改良水稻合計約粍百五十石を日支農家に配付しつゝある。

四 果樹苗木獎勵品種の育成

瓦房店苗圃及農事試驗場熊岳城分場

果樹優良種として本社の獎勵する品種は苹果にありては紅魁、黃魁、祝金花、旭、紅玉、國光、初日出、元帥、翠玉、祥玉の各種、梨にありては鴨梨、白梨、紅梨、巴黎、日面紅、琵琶梨、白洋梨、楊貴梨の各種、葡萄にありては龍眼、白鷄心、晚香玉、黑罕坡、玫瑰香、嬌娘、蜜露、華盛頓の各種、杏にありては大杏梅、二杏梅、李子杏とする。而して之等の苗木育成は瓦房店苗圃及農事試驗場熊岳城分場に於て行つてゐるが現在の滿洲果樹園は苹果を主とするものであるか

ら従つて苗木の育成も苹果を主とするもので各品種の内國光、紅玉が最も多い、一箇年の生産苗木數前者は約一千本、後者は約一萬五千本で合計約二萬六千本を日支農家に配付しつゝある。

五 黑山屯種羊場

本社は公主嶺農事試驗場に於ける緬羊改良試驗の結果技術的に之を改良することの可能なることを確めたので、將來滿蒙緬羊の改良増殖を目的として滿蒙適當の地に數箇所の種羊場の設置を企圖して居る。黑山屯種羊場は其の豫定地中の一である。東蒙巴林旗下黑山屯所在蒙古產業会社に事業を委託して小規模ながら大正十年度から着手したのであるが同会社が東亞勸業株式會社の手に移る事となつたので本種羊場は大正十三年四月から之を本社直營に改め事業の充實を計つて居る。借受地

面積約百二町歩、目下種羊頭數約一千二百頭に上つてゐる。

六 公主嶺假種羊場

公主嶺農事試驗場に於ける緬羊改良の試驗成績が發表せられて以來メリノー種羊を得て蒙古羊の改良を試みんとする計畫日支人間に漸次勃興して來たので、種畜の供給は甚しく必要に迫られた爲め當初豫定の種羊場用地を獲得して事業開始を見る迄簡易なる規模の種羊場を附屬地内に設置して種羊希望者の需要に應ずる爲め、大正十三年四月本假種羊場を開設したのである。飼養種畜は總て「メリノー」種とし、十三年八月米國から牝百三十頭、牡六頭を輸入し之を基本として種羊の蕃殖に努めてゐる。生産種羊を一般に配付し得る時期は、大正十五年以降の豫定である。面積三十三町歩、目下種羊二百八十頭を繋養して居る。

七 鐵嶺種豚場

滿洲在來種豚の改良に就ては緬羊改良試驗と共に公主嶺農事試驗場に於て試験研究の結果「バークシア」種豚を改良に供用するを以て最も成績良好なることを闡明したので、大正五年より十三年迄に同場に於て年々生産する「バークシア」種豚約二百頭を附屬地内外の日支人に配付し來つたが、此れのみでは到底一般希望に應ずることが出來ないので大正十四年度から鐵嶺附屬地内鐵嶺苗圃に隣接して面積約三萬平方メートルの用地を選定し差當り十八頭の基本種豚を日本内地及朝鮮から移入して目下其の蕃殖普及に努めてゐる。尙將來は各地苗圃にも簡易な種豚場を附設する計畫を樹てゝ居る。

第五 植樹造林用樹苗の育成

其の概要

明治四十年本社創設の當時より地方施設の一端として沿線附屬地内に於ける水源涵養、風致保安及保健衛生等の見地から植樹計畫を樹立し、市街、道路、公園、社宅、其他建物構内等の植樹に要する樹苗を養成する爲明治四十一年大連常盤橋附近に假苗圃を設置し、爾來相繼で各地に苗圃を開設し、主として地方施設としての植樹用苗木の養成を行つた。越へて大正三年撫順に於て坑木其他用材の生産を目的とする炭礦用地内の造林を開始し以來同地附近に於て大規模の造林を實行するに及び之が造林用苗木の供給を爲す爲めに大正三年以降十年に至る間に於て苗圃四箇

所を増設した。又大正六年用材の生産及沿道風致の維持を目的として鐵道用地の造林に着手し、一部苗圃の擴張を行ひ今日に至つたのである。尙最近に於ては苗木の無償、又は減價配布及造林計畫其他技術上の援助を與へ極力造林の奨勵に努めつゝある。而して熊岳城農事試驗場分場及鄭家屯試作農場に於ては養苗及植樹に關する試驗を行ふ傍ら養成苗木は各地の植樹造林用として配給して居るのである。

二 苗圃

苗圃の現状

現在の苗圃數は二十で總面積は約二百十九萬五千餘平方米、内樹苗養成地約百五十四萬平方米ある。而して右二十苗圃の内熊岳城及鄭家屯は林業に關する試驗を行ひ撫順に於ける四苗圃は坑木備林造成用苗圃と

して特殊な目的をもつものである。而して養苗費最も多きは撫順で年平均六萬餘圓に達し鞍山、沙河口之に次ぐものである。内撫順、鞍山、沙河口に左に現在苗圃の位置、面積、設立年月、養苗費、其他を表示する。米内苗圃

苗圃名	總面積 (平方米)	面積			養苗費 (大正三年 平均年經費) 円	設立 年月日	備考
		樹苗圃 (平方米)	其他 (平方米)	計 (平方米)			
沙河口	八二,七六二	六八,二二六	—	六八,二二六	二,七四一	二、四、一	大正十三年 三月常盤橋 より移轉
伏見臺	三〇,九六六	二二,六五九	一,九五五	二四,六一四	九,四四四	四一、一〇、	
瓦房店	四〇,〇七五	二二,二五二	一三,〇五〇	三六,三〇二	三,〇七二	四一、四、一	試驗場と一 括しなるを 以て不明
熊岳城	一一九,一八三	七七,一六二	—	七七,一六二	六,六三八	二、四、	
大石橋	六一,二二六	三〇,五三一	四九七	三一,〇二八	一四,一二三	九、二、二二	其他農事試 作を行ふ
鞍山	二六五,二四八	一九一,九五二	—	一九一,九五二	五,八〇三	四三、	
遼陽	一五二,九四二	五二,三四一	五四,六五一	一〇七,三九六	—	—	

苗圃名	總面積 (平方米)	面積			養苗費 (大正三年 平均年經費) 円	設立 年月日	備考
		樹苗圃 (平方米)	其他 (平方米)	計 (平方米)			
奉天	五四,四〇三	三五,七〇三	—	三五,七〇三	三,八九四	四五、三、一〇	大正十三年 三月現在の 地に移轉 其他農事試 作を行ふ
鐵嶺	九九,三〇〇	二一,六〇八	五二,三四一	七三,九四九	三,四七三	一〇、一、	
開原	四六,七三〇	三六,〇六九	—	三六,〇六九	二,九八六	七、七、九	大正 大正
四平街	五七,三三〇	四四,六八五	二,九七九	四七,六六四	二,〇六六	八、四、一	
公主嶺	五七,六九四	四三,一四三	—	四三,一四三	一,七二五	二、六、三	明治 明治
長春	三三,九一五	一九,四四四	—	一九,四四四	二,五二五	四三、四、	
撫順、古城子	二三四,六二〇	一七八,一三〇	—	一七八,一三〇	—	—	明治四十三年 四月開設 大正十年四月 現地に移轉
撫順、東郷	三五三,三三〇	三三三,二四四	—	三三三,二四四	六〇,四八六	八、四、一	
撫順、楊柏堡	二〇一,六二七	一二七,三〇〇	—	一二七,三〇〇	—	—	大正 大正
撫順、新屯樹	二二五,九四四	一七二,七六四	—	一七二,七六四	—	—	
本溪湖	二七,一四四	二二,二五三	—	二二,二五三	五,二六六	四五、四、一	明治 大正
安東	五二,一三二	四〇,六八二	九九三	四一,六七五	七,一三四	七、四、一	
鄭家屯	八,八九七	七,八六一	—	七,八六一	二,〇三〇	一〇、四、	其他農事試 作を行ふ
計	二,一九五,一六八一	一,五三九,四三二	一,二六,四六六	一,六六五,八八八	一三七,五〇四	—	

業績の一斑

植樹事業開始以來既に十餘年本社直營の植樹造林並びに社外希望者の植樹造林等の爲め配給した苗圃生産の苗木本数は(大正八年乃至大正十三年)次表の如くである。

苗圃名	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
沙河口	一四四、九七五	三〇八、三三三	二五〇、五三六	七七、九一四	一五九、六八七	一九六、六四三
伏見臺	二二、一七七	三、五五二	八七六	二〇、三五三	八、七六三	一、三三三
瓦房店	三七、五九〇	四八、一六〇	八六、四〇〇	七一、三三三	五三、一三〇	一五、六八五
熊岳城	四〇四、三二一	三二四、二八八	二八六、四八二	三九二、五四九	一七一、二二五	一八二、三九四
大石橋	二三、六四〇	四〇、三〇六	三六、三六一	五〇、五六二	七七、四三四	一二六、四七六
鞍山	—	一七三、七七七	二〇二、五一六	四三六、二九九	三三〇、八八六	二四三、八〇九
遼陽	二六、三五七	三七、六一六	一八、〇九一	五四、〇九一	五〇、九二五	七四、二〇九

苗圃名	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
奉天	六四、六九八	五四、九四二	四八、九六二	四六、三九六	五七、〇〇三	四五、三〇四
鐵嶺	七、四一八	六、五〇三	五、六四三	九、八四九	二〇、三九八	一六、八五六
開原	一六、六三八	二五、二二二	二四、五三六	四四、一九六	三八、七二九	二八、〇二二
四平街	四、五四二	一七、六〇〇	一八、二三七	二五、七九八	二二、八九五	八、九三二
公主嶺	五六、六四二	三一、七四二	三六、三九五	一九、八二〇	二八、五三四	二二、二〇五
長春	一一、六八一	九、二五六	五、五八五	二二、五九四	九、九七九	一九〇、四三二
撫順	五四四、四二二	一一、二五一、〇六五	三、七〇二、〇〇六	六、七五、五五〇	四、四八七、五五六	五、八五七、一一六
本溪湖	七六、三三四	七三、九七〇	二〇一、一一六	一三二、二八七	一四〇、一三〇	五九〇、四三二
安東	一一、五〇〇	一九八、九〇〇	三〇一、二五九	一五五、三三七	二七一、〇〇六	二七八、〇八二
鄭家屯	—	—	—	四、五五〇	三、五〇〇	六、五〇〇
計	一、四五一、八〇五	二、五九五、二二二	五、二二五、〇〇一	七、七四〇、四九二	五、九二一、七八〇	七、三二八、九六八

右表に依れば配給苗木の最も多きは撫順を第一とし熊岳城、鞍山、沙河、口、安東の順序である。

以上の苗木樹種の主なるものはアカマツ、クロマツ、カラマツ、コノテガシハ等の針葉樹とニセアカシア、シンジュ、ネグンドカヘテ、ドロノキ、ヤナギ、ノニレ等の濶葉樹である。

次に驛構内、社宅、諸建物構内、道路、公園、鐵道用地、山野雜部の植樹本數及社外分讓の樹苗本數を示せば次の如くである。

年次	驛構内	社宅	諸建物構内	道路	公園	鐵道用地	山野	雜	本社直營植樹(計)	社外分讓
明、四、一、大、元	—	—	—	—	—	—	—	—	六〇七、四一四	—
大正二年	五六、二四四	四四、七三八	一六、二七〇	二二、五七四	一〇九、五九二	—	—	—	三三一、一七〇	二、七〇〇
同三年	五五、八六七	一〇四、〇三七	一九、六四三	一四、七八八	六五、七九二	—	—	—	三〇九、九九五	一七、七八八
同四年	三八、〇三七	一一〇、八五〇	四三、二七三	一三、九二五	五八五、九九七	—	—	—	三八二、七〇九	一六、六四一
同五年	三八、六一四	一八三、六〇三	五五、五七三	一三、七二〇	七二、五五七	—	—	—	四四三、九二四	六五、四二六
同六年	四六、一〇五	一六二、〇五二	七二、二八五	一八、八四〇	七三、〇〇八	—	—	—	七七二、六四六	一一四、〇五一
同七年	六七、三二〇	九六、五一九	四八、〇〇二	一三、二九四	四〇、一〇一	四五六、七七四	一九五、三一六	六〇、六五五	一〇、三八、二七一	四五二、六六〇

大正八年	三二、八八八	一三八、一三三	三九、七二二	一六、七四九	一一〇、一〇四	四〇一、一四〇	二九二、五九二	一三、一八八	一〇、一五、四、六一五	六五六、七六二
同九年	三七、〇四四	二六二、三五六	三六、八四〇	一五、九四一	九二、八二五	二八二、七三〇	一、二二〇、〇〇九	七四、一五六	二〇、二一、八、九一	三三三、〇三七
同十年	一八、五六六	二一五、五四〇	一九、一五四	二二、六二五	一〇四、二一六	三二六、三九〇	二、八八八、三〇八	八三、四七〇	三、六五八、二六九	九九八、五九六
同十一年	三〇、七四三	一九六、五八七	五一、二七〇	一五、三一一	九三、四七二	六一、一五五	四、八五七、七五七	一八二、一九六	六、〇三、八、八九一	二、九五、六、六二
同十二年	四四、四一一	二二三、三九九	五九、〇四一	一三、四〇二	五二、三四八	五四四、七六一	三、四八四、二〇九	一七四、一三〇	四、五九、五、七〇一	二、四四、二、〇一三
同十三年	三二、七三六	二五一、九六七	三一、五二三	一〇、六九四	一三、〇七〇	四四七、三〇三	四、五九四、三一八	八二、六二六	五、五八〇、三三七	三、二六、三、四六
計	四七七、五六五	一、九九九、七八〇	四九二、五六〇	一八一、八六三	一、〇七三、〇八四	三、二五二、四二五	一七、九七九、七三六	七七一、三〇六	二六、八三五、七三三	六一、四八二

即ち明治四十一年以來大正十三年に至る十七年間に本社直營の植樹は約二千七百萬本に及び造林用として社外に分讓したる六百五十萬本を合すれば、實に三千三百餘萬本に達して居るが、滿蒙の大に比すれば實に九牛の一毛に過ぎぬ。而して右の内純然たる用材林を目的とする造林は撫順の外之を實施せられたるものなく、附屬地山野の造林は撫順、安東、鞍山及大石橋の各地を主なるものとし鐵道用地造林は農務課直營の州

内、瓦房店管内及安奉線の安東、本溪湖管内の外は着手年月淺く數量未だ尠い。尙奉天以北は復線工事の關係上未だ實施に至らないが十四年度に於て大體植樹用地の調査を終了したから十五年度より養苗を行ひ十六年度より植樹開始の豫定である社外造林即ち獎勵造林は從來主として撫順方面のみであつたが漸次安奉線に及ぼし今後は益々獎勵造林に力を注ぐことになつて居る。

第六 家畜疾病の研究及獸疫血清類の製造

一 概要

滿蒙の天地は良く家畜の生産に適し従つて其の數甚だ多く牛、馬、豚、羊其他を合せ二千數百萬頭に上るが、從來之等に對する衛生施設なく牛疫、

炭疽、鼻疽、豚疫、豚虎列刺、羊痘等の家畜傳染病及其他の疾病竝に寄生蟲病等の爲め斃死するもの少くない。之が爲め蒙る滿蒙家畜界の損害は一千萬圓乃至二千萬圓に達するものと推測せられて居る。而して之等家畜疾病の主なものに對しては夫々豫防竝治療血清を用ひて奏效確實なるは世人の既に熟知する所である。

本社は茲に鑑る所あり大正十三年度から二箇年繼續事業として奉天に獸疫研究所を設置することとなり大正十三年十月起工し大正十四年十月落成直に事業を開始するに至つた。

二 奉天獸疫研究所

上記の奉天獸疫研究所は家畜傳染病及疾病の調査研究を行ふと同時に各種血清、豫防液及診斷液類の製造を目的とするもので既に事業を開

始してゐるが製品は十五年三月頃より出来る見込である。

位置は奉天驛より西北約十町、總面積拾萬九千九百九十一平方米餘、建物は實驗作業室たる本館を始め血清分離室、機關室、牛疫免牛舎、同疫牛舎及滅毒室、炭疽免疫動物舎、豚虎列刺免豚舎、大動物用試驗動物舎、屍體及汚物焼却室の十棟で此の建坪は二千二百七十六平方米である。

建設費約二十五萬圓年經費は差當り約八萬圓餘で事業科、研究科及庶務係からなり、職員十一名を置いて居る。而して事業科に於て製造す可き主なる生産品は次の如くである。

牛疫血清、牛疫豫防液、炭疽血清、炭疽豫防液、豚虎列刺血清、豚虎列刺豫防液、豚疫豫防液、家禽虎列刺血清「ツベルクリン」「マレイン」、狂犬病豫防液等。

第七 農業教育

一 熊岳城農業學校

大正十二年四月一日の設立に係り主として中國人の子弟にして日語を學びたる者を入學せしめ簡易な農業教育を施すを以て目的とし便宜日本人學生をも收容することを得ることに定めてある。本校の修業年限は三箇年で別に一箇年の豫科を置くことを得る規程である。大正十四年四月末現在の生徒數は豫科三十八名、本科七十名、合計百八名に達してゐる。

二 公主嶺農業學校

大正十二年四月一日の設立で其目的、修業年限、學科目、入學資格等は皆

熊岳城農業學校と同一である。大正十四年四月末現在の生徒數は豫科三十九名本科四十八名合計八十七名である。

三 農事試驗場實習見習

(第三農事試驗の項参照)

第八 農業調査

本社創設以來農事に關する調査報告極めて多く農牧林業の改良増殖計畫に對する基礎參考となし或は一般當業者の企業上の參考に資す可きもの尠からぬのである。今之等調査報告書を一々列擧するの煩を避け其の當業者の企業上參考たり得るもの及び滿蒙農事知識啓發上必要と認めたるもので特に印刷に附し、一般希望者に配布した主なるものゝみを列擧することとする。

一 農務課發刊

産業資料

卷數	書名	著者	發行年月
其一	南滿洲米作概況	地方課	大正四年五月
其二	花卉栽培概要	同	同
其三	南滿洲農業概況	同	同
其四	滿洲之果樹	谷川利善	同
其五	南滿洲果樹栽培に關する調査	渡邊柳藏	同五年一月
其六	滿洲之果樹(續編)	谷川利善	同九月
其七	南滿洲農村土地及農家經濟の研究	駒井徳三	同十月
其八	東蒙古に於ける東蒙古植物目錄 る牧草雜草	矢部吉禎	同十二月
其九	滿蒙農政私案	攝待初郎	同七年九月
其十	南滿洲米作概況	地方課	同

其十一	滿洲の麻	攝待初郎	大正八年九月
其十二	青島植物豫察調査報告	矢部吉禎	同
其十三	滿洲の煙草	横瀬花兄七	同九年七月
其十四	滿洲の水田	石津半治	同十年十月
其十五	蒙古の天然曹達	佐藤義胤	同十一年二月
其十六	滿蒙に於ける農業經營の研究	横瀬花兄七	同八月
其十七	アルファルファ及甘草の栽培試験	農務課	同
其十八	南滿洲に於ける果實及蔬菜の需給狀況	繁田正芳	同十二年三月
其十九	滿洲の棉花	横瀬花兄七	同九月
其二十	大豆の栽培	三箇功	同十三年四月
其二十一	大豆の加工	佐藤義胤	同
其二十二	大豆の經濟	同	近刊
其二十三	滿洲の果樹園經營	繁田正芳	同十四年八月
其二十四	滿蒙植物誌 <small>(第一輯 禾本科)</small>	三浦道哉	同
其二十五	滿蒙植物目錄	同	同十四年十一月

其の他

卷數	書名	著者	發行年月
	滿洲植物圖說 <small>第一卷 第二卷</small>	地方課	大正三年七月
	滿洲樹木名稱表	同	同六年
	商工業上より見たる滿洲大豆	兒玉翠靜	同七年三月
	(秘)南滿松豆牡流域森林調査書	地方課	同六月
	農業上より見たる滿蒙の富源 <small>(附)滿蒙移住の要諦</small>	枋内壬五郎	同十年一月
	同 <small>(英譯)</small>	同	同十三年六月
	滿洲大豆	伊藤文十郎	同九年十二月
	農業施設概要	農務課	同
	南滿洲鐵道附屬地農事統計	同	同
	滿蒙農業開發策及本社之農業施設概要	同	大正十四年
	同 <small>(華文)</small>	同	同

二 農事試驗場發刊
農事試驗場彙報

號數	書名	著者	發行年月
第一號	南滿洲に於ける甜菜栽培の研究	本場	大正五年十一月
第二號	滿洲の在來農具	大重篤	同六年四月
第三號	南滿洲に於ける亞麻栽培の研究	本場	同六年五月
第四號	南滿洲に於ける甜菜の害蟲	山田保次	同七年
第五號	南滿洲在來農業	宗光彦	同六年六月
第六號	滿洲の陸稻	三谷長允	同八年二月
第七號	蠶業の葉	四方直藏	同五月
第八號	滿洲の皮革	中原驥一郎	同七月
第九號	滿洲の在來肥料	大橋敏	同
第十號	南滿洲土性調査報告	同	同十二月
第十一號	滿洲主要農作物の病害	三浦道哉	大正十年一月

號數	書名	著者	發行年月
第十二號	南滿洲に於ける水稻栽培の研究	黑澤謙吉	同十一年一月
第十三號	南滿洲の牧羊	香村岱二	同四月
第十四號	滿洲に於ける樹幹枝剝皮法に就ての研究 梨樹栽培上	渡邊柳藏	同十二年十月
第十五號	南滿洲土勢調査報告	突永一枝	同十三年一月
第十六號	滿洲主要作物栽培と氣候	村越信夫	同三月
第十七號	滿洲豚に關する調査	香村岱二	同
第十八號	果樹類のモニリア病に就て	三浦道哉	同十四年六月
第十九號	滿洲に於ける忽布栽培の研究	山崎芳雄	同十四年七月
第二十號	公主嶺農事試驗場氣象十年報(英文)	村越信夫	同十四年
第二十一號	滿洲亞爾加里土壤調査報告	突永一枝	同十五年二月

其他

號數	書名	著者	發行年月
一	農事試驗場一覽	本場	大正十四年八月

農事試驗場要覽

同 十一年八月

三 調査課發刊

卷號	書名	著者	發行年月
資料彙存第一號	南滿洲農業概要	莊村秀雄	明治四十四年
調查報告書第二卷	人口、耕地及農產物より見たる滿蒙の大勢	星武雄	大正八年四月
同第十三卷	滿洲農家の生産と消費	野中時雄	同 十一年七月
同第十八卷	滿洲に於ける大豆以外の油料子實	伊藤文十郎	同 十二年二月
同第二十一卷	滿洲粟に關する調査	熊野御堂健次	同 十四年
同第二十六卷	滿洲高粱に關する調査	同	同 十四年十月
露文翻譯調査資料第四號	滿洲の森林	調査課	同 十三年六月

四 哈爾賓事務所調査課發刊

號數	書名	著者	發行年月
哈爾濱調査資料第四號	北滿に於ける小麥と製粉工業	山口寛雄	大正十二年十月
同第五號	滿蒙の畜産と東支鐵道	調査課	同
同第十六號	北滿洲の林業	草野龍次郎	同 四月
同第三十號	北滿洲の特産物	松井隆之助	同 九月
同第三十四號	東支鐵道海林地方に於ける水田業	清水利吉	同 十二月
同第三十七號	北滿洲農村經濟	堀内竹次郎	同 十四年二月
同第四十號	滿洲纖維用亞麻作論	稻葉豐城	同
同第四十九號	北滿洲に於ける亞麻栽培の將來と其栽培地方の限定	同	同 十四年十月

第九 農事助成

一 水田事業の援助

水田は滿洲に於て興り得べき可能性があるもので現に盛な勢で増加しつつある。現在の水田面積は約六萬町歩と稱せられて居るが、今後の開田可能面積は五十萬町歩乃至百萬町歩と推定せられて居る。而して滿蒙水田開發の如何は將來本邦食糧問題に重大な關係をもつもので且つ滿蒙農業資源の開拓上忽にす可らざる當面の緊急問題である。本社は此見地から各地に土地を穫て水田事業を試むる事業家に對しては隨時技術員を派して調査指導をなすのみならず直接、間接に經濟的援助をも行つて來たもので此種事業に對する出資も相當な額に達して居る。今後も益益斯の方面に力を注ぐことは勿論である。更に本社は水田事業の根本たる系統的な水利調査を行ひ斯業助成指針たらしめんとする希望を抱いて居る。

二 特用作物栽培事業の援助

(1) 煙草

鳳凰城及得利寺の兩煙草試作場の試作に依り南滿地方の氣候、風土が米國種黄色煙草の栽培に好適し在來種に比して品質、收量遙に勝るの事實が明となり之等兩地方を初め其他に於ても漸次其栽培を試むるもの増加し斯種栽培を目的とする組合等組織せらるゝの機運に達したので本社は組合其他に經濟的援助を興へ隨時技術員を派し指導を行ふて其助長に努めてゐる。

(2) 棉花

熊岳城農事試驗場分場及關東廳農事試驗場の試験により熊岳城以南

特に關東州は陸地棉の栽培に好適し他作物に比し其收益大なることが明となつた。時恰も綿絲紡績會社が滿洲に工場を續設するに際會したの
 で在來棉に比し收益大で而も紡績用として好適な陸地棉の栽培は當然
 勃興するの機運となつたのである。茲に於て當局は朝野の有志と謀り、大
 正十三年棉花栽培協會を組織し極力陸地棉の普及繁殖を計ることにな
 ったので非常な勢を以て其栽培面積を増加するに至つたのである。
 本社は當初より其舉に參畫し極力事業の助長に努め直接、間接に種々
 の援助を與へ特に協會に對しては年々相當の經濟的援助をなして居る
 のである。

(3) 忽布

忽布は麥酒釀造用、麵麩用として滿洲に於ても相當需要あり。而して本

社農事試験場の試験成績は甚だ良好で採算の見込十分なるに關らず、未
 だ其栽培に志す者尠く米國其他より輸入しつゝある狀況である。
 本社は茲に見る所あり、忽布は將來滿洲に興り得べき新作物として普
 及を促すの意向で特に北滿地方が適當する爲め同地方で斯業に志す者
 に對しては相當の援助を爲しつゝある。

然し一時に大規模の經營を試むるは、初期時代には不測の失敗を招く
 虞あるを以て目下の處では試験的に事業の援助をなし經濟的の補助も
 與へて居る。其成績に依つて更に積極的に事業の助長をなす考である。

(4) 亞麻

亞麻は本社農事試験の結果滿洲に好適な作物である事が明となつた
 特に北滿に然るを以て本社は同地方一帯に亞麻作の獎勵を行ひつゝあ

るが其結果は極めて良好である。現在では補助金を交附し委託栽培的に事業の發展を圖つて居る。

三 果樹栽培事業の助成

熊岳城農事試験場及關東廳農事試験場の試験により南滿が苹果、梨、葡萄等果樹栽培の最好適地なることが明となつて以來果樹熱が旺となり此十數年間に於ける果樹の植付けは既に二千町歩に達するの盛況で將來益々發展し東洋に於ける一大産地たる日の來るは明である。

本社は夙に此趨勢に着目し、他面搖籃時期にありて而も十數年後にあらざれば利純を見るを得ない果樹園經營は相當困難なものであることを考慮し其發展に對し或は専任技術家を置き巡回指導をなし、或は經濟的援助をなし或は果樹組合の設立を促し技術的及經濟的の援助をなし

極力事業の助成に努めつゝあるのである。

四 農耕地の貸付

本社附屬地内には約三千町歩の農耕適地があるので之を極めて低率なる料金を以て日支農業者約三百名に貸付けてある。附屬地内三千町歩の農耕地を以て一大農事試験場と見做し本社及各地方事務所の產業係は之が指導調査を怠らない。特に大正三年以降本社鐵道守備隊滿期兵中より志操堅實成績良好なる者を選び種々の特典を興へて一戸平均六萬坪を貸付け農業經營に當らしめてゐるが一戸能く三千圓の純益を擧げて居る者がある。

猶熊岳城以南の地は果樹栽培に適するを以て本社は斯業獎勵の爲め果樹園經營者に對し特に土地貸付料金を低減し、或は技術上の指導を爲

し或は技術者の雇入の費用を補助する等果樹園業の發達を助長してゐる。

五 農場(水田、果樹園を含む)牧場、造林、伐木事業の助成

本社は從來最も適切と認むる農事企業、牧場經營、造林、伐木事業等に對しては株式の引受、貸付金又は債務保證等の形式で極力其の助成に努めたもので其件數及金額も尠からぬのである。内出資額の最も大なるは株式出資の東亞勸業株式會社及日露支合辦札免採木公司の兩者である。

然し今後の助成方針は如上の株式引受、貸付金又は債務の保證等の形式を避け専ら經濟的、技術的に適切な援助又は便宜を給與し極力其の助成に努むることとなつた。

六 社外農事企業依頼調査及指導

一般農事企業者の依頼に應じ、本社は専門技術者を派し企業適否調査及指導をなし、其方針を過たしめざる様努めてゐる。

七 農業者使用品運賃割引

大正三年以降附屬地外の内農業者保護の主旨を以て、會社より貸付又は農業者が直接購入する農業用諸器械、農具、肥料、種畜、種苗等に對し鐵道運賃の半減を實行して居る。大正十三年度迄に運賃割引を爲したるもの農具約百點、肥料約二百二十萬貫、牛畜三百七十七頭、羊五十一頭、馬百六十頭、其他で大正十三年度の運賃半減費は四千圓以上に達して居る。最近著しく増加の勢を示してゐるが之は農業者自覺の進歩と果樹園經營の激増によるもので滿洲農界の爲め喜ぶ可き傾向である。

八 優良種苗及種畜配布

試験の結果有利有望と認めた新作物及各種の作物、苗木、家畜の優良種を夫々一般農家に普及せしむることは満蒙農業開發の基調をなす可きものなるを以て本社は原種圃、採種圃、種畜場及苗圃を設け優良種苗及種畜の育成を行ひ極力其の配布を企圖して居るのである。目下配布の實行に着手したものは大豆、水稻、緬羊、豚及果樹を主なるものとする。而して配布の方法は大豆及水稻にありては需要者の事情により無償又は減價有償とし種羊及種豚は大部分減價有償で果樹苗木は全部減價有償とする。斯くの如くして大正十三年度末迄に配布した數量は略次の如くである。

- 改良大豆種子 八百石
- 改良水稻種子 四百石
- 種羊(改良種及メリノ種) 二百六十六頭

日本種 豚(バークシア種) 二百頭

五十優良果樹苗木 十六萬三千五百本

一 尙此外滿蒙の牛畜が乳牛としての能率貧弱なるを以て附屬地内の乳牛改良の目的を以て優良種牡牛(ホルスタイン種)を輸入して搾乳業者に貸付けて居る。其數は大正十四年度迄に八頭である。

九 農事講話會及農産物品評會

本社従事員並に附屬地内及附近日支農家の獎勵を目的とし農産物中特に果實、蔬菜並に大豆、水稻、煙草等の改良種の品評會を年々各地に開催し、又附屬地内日支農家に對し農業上の知識を與ふる爲め隨時農事講話會を開催して、農事思想の普及並に改良に盡して居る。此後は廣く一般農家に對しても此事を普くする方針である。

一〇 農事試作補助

滿蒙の大に對しては現在の本社農事試験機關を以てしては素より十分と云ふを得ないので各地方の篤農家に相當の援助を與へ煙草、忽布、亞麻、其他に對し農事試験の補助たらしめてゐる。尙支那側、露西亞側の大規模農事試験に對しても事情の許す限り技術的、經濟的の補助をなす方針である。現に亞麻の試作に關し露西亞側農事試験場と協力しつゝある。

一一 造林用樹苗の配布

造林獎勵の爲め本社は苗圃にて育成した樹苗を無償又は減價分讓で一般に配布して來た大正十三年度末迄の配布數は約七百六十萬本で、大正十三年度無償分讓の苗木數は百八萬八千二百本、内四十五萬五千本は日本人に對し、六十三萬三千二百本は華人に對し分讓したものである。

獎勵造林は從來主として撫順方面のみであるが今後は他の方面にも極力獎勵助成することになつて居る。

一二 獸疫豫防

家畜傳染病の豫防制遏の爲め大正三年以來關東州内に獸疫豫防規則を施行せるが大正八年右規則改正と同時に州外滿鐵附屬地にも之を適用することとなり州外(附屬地)に於ては本社之が運用に當り各地に獸醫を配置すると共に各種獸疫血清及ワクチンを常備し又豫防の爲め撲殺したる家畜に對しては相當賠償を與へ其他之に必要な經費を支出し關東廳と協力して獸疫の防遏に努めてゐる。尙此後は州内及附屬地に限らず滿蒙一般に廣く獸疫豫防の趣旨を徹底せしめ其防遏に努むる方針で支那側官民に對しては極力援助をなし協力實績を擧ぐる考である

支那開發の一三 農事企業に對する助成方針

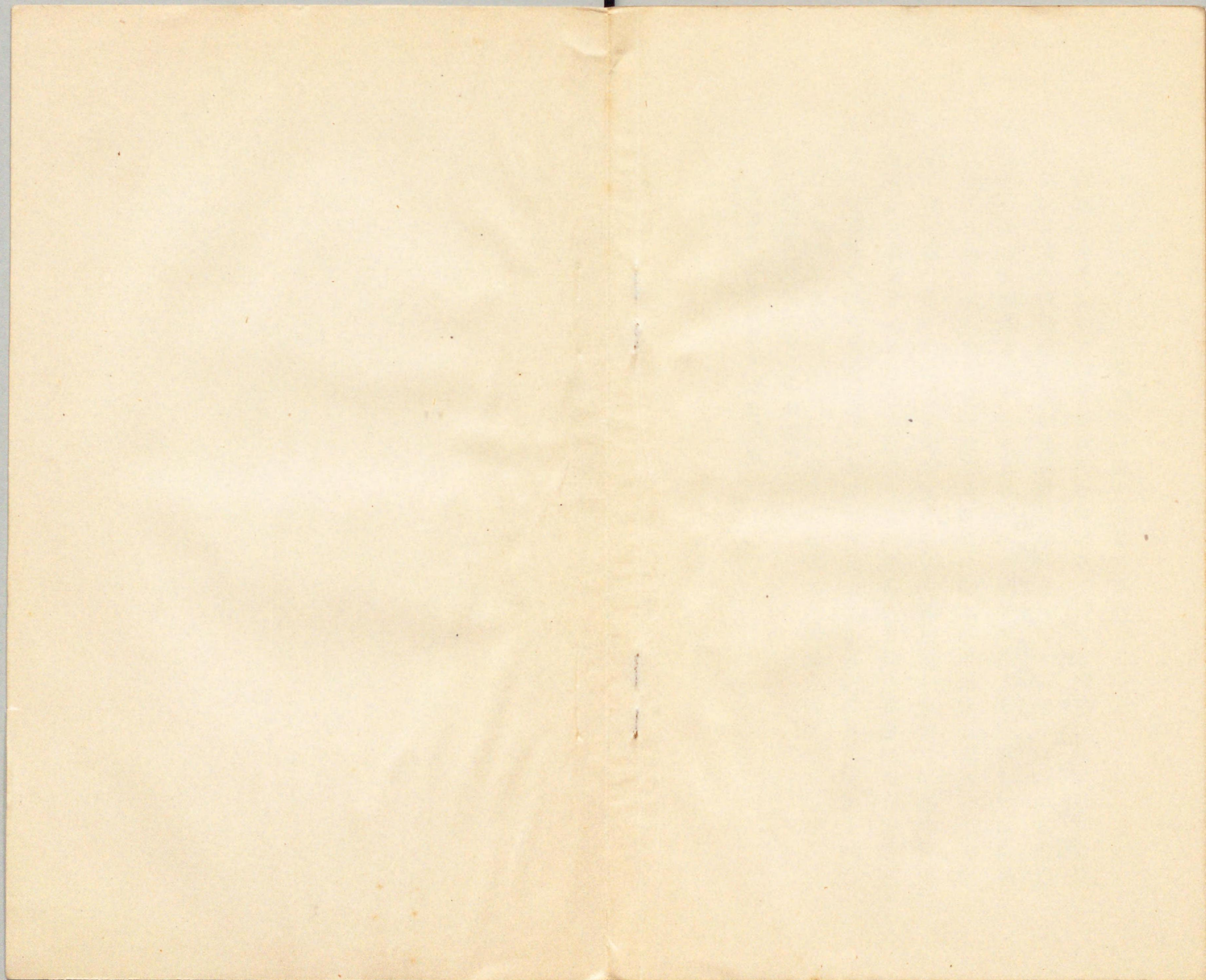
七〇

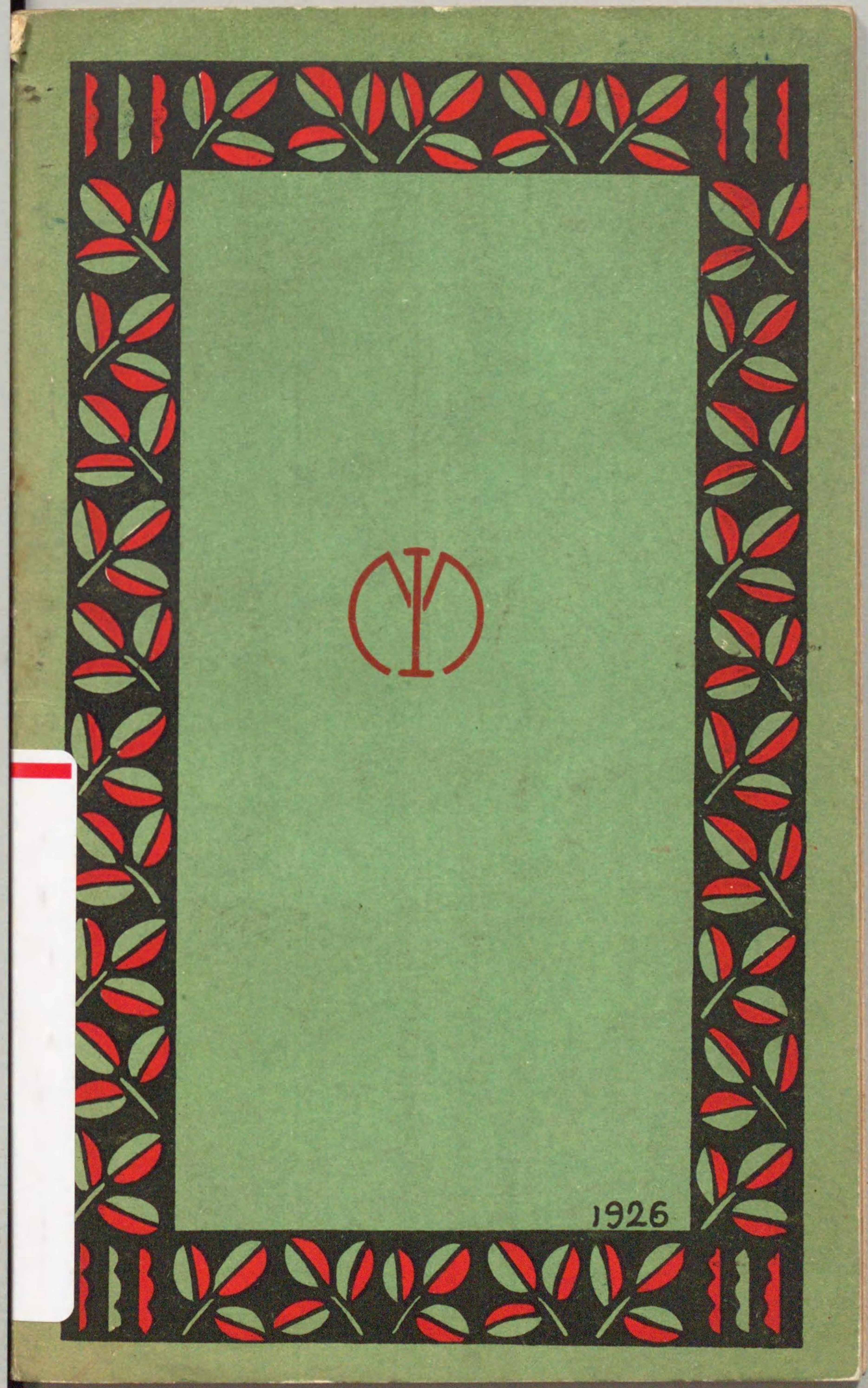
從來滿蒙方面の有望な企業も投資者間に於ては滿蒙の知識が不充分であつた事と初期時代の企業成果を危惧する等の原因に依つて資本を吸収すること困難であつたから本社は先驅者となつて出資をなし、斯業の發達を期したのである。勿論農業企業に對しても同様な方針をとつたのである。然し今日に於ては滿蒙に必要な金融機關も整備され事業資金の運轉も圓滑を見るに至つたので、從來産業助成の一方法であつた株式の引受、貸付金又は債務保證の如き出資は自今之を避け専ら經濟上竝に技術上に於て其事業の遂行に對して適切な援助又は便宜を供與することとなつた。

大正十五年二月十五日印刷
大正十五年二月二十日發行

南滿洲鐵道株式會社

興業部農務課編





YM

1926